



Contents

多摩大学公開講座
寺島実郎監修リレー講座
現代世界解析講座 P.02

News P.03
卒業生 原 歩さん、オリンピック出場

特集 プロサッカービジネス体験
多摩大学マッチ DAY P.04

プロジェクトゼミナール紹介
2008年度
プロジェクトゼミナール一覧 P.06

地域と大学 大学周辺を散歩 P.08

多摩大学公開講座 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座

いま、世界潮流と日本のあり方を考える

多摩大学将来構想委員会の寺島実郎座長が「世界潮流と日本の進路」をテーマに、国際情勢や経済、国内行政等の各分野における精鋭の専門家を多摩大学に招き、リレー講座形式による通年の体系的なプログラムを開催。今回は将来構想委員会の提案に基づく実行策の一環として寺島座長責任監修のリレー講座をスタートし、通年で全24回の講義を開催する。多摩大学新入生にとっては必修履修単位として、また一般社会人の聴講生、他大学の学生、約500名を対象にした講義を連続して行う。社会人の応募は定員をはるかに超え、講座への期待と関心の高さが伺えた。春学期は全12回、各回木曜日の14:40～16:10の90分、多摩大学多摩キャンパス001教室にて開催した。

4月17日に開催された第1回の講師は寺島実郎氏自ら務め、満席となった大教室は熱気に包まれた。また4月24日に行われた第2回講座の講師は、今年4月から多摩大学経営情報学部教授に就任した久恒啓一教授。著書『図で考える人は仕事ができる』など活発な著作活動を展開している。その後も、多方面で活躍する多彩な講師陣の熱気あふれる授業が行われ、春学期12回のリレー講座は終了した。



寺島 実郎

(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長 多摩大学将来構想委員会座長

第1回 「21世紀に入って7年間の世界潮流の変化について」 ～世界経済、政治の基本構造の変化を探る

現場に立つことを重要とする先生は、海外から日本を見る機会が多い。身をもって感じた現場の変化の印象や感覚と統計とをすり合わせながら、貿易構造の変化(対アメリカとアジア・大中華圏との比重変化)、それに伴う物流の変化、日本を取り巻く人流の変化について語った。またアジアダイナミズムやユーラシアダイナミズムについても、政治、経済の構造の変化について講義した。



久恒 啓一

多摩大学経営情報学部教授

第2回 「現代世界のつかまえ方」 ～図解思考のすすめ

「現代世界」を把握しようとするとき、私たちは個別・具体的な事実や数字を組み合わせ、自問自答しながら一貫した物語をつくる必要に迫られる。そのためには、体系化、構造化、相対化、全体像、位置づけ、遠近法など、「関係」を表現する技術が求められる。図は全体の構造と部分同士の関係を表せるため、「わかった!」という前に落ちる感覚を味わうことができる。本シリーズを血肉化するための「図解思考」の考え方や技術を学ぶ。



酒井 啓子

東京外国語大学大学院地域文化研究科教授

第3回 「イラクを巡る国際政治情勢」

イラクの治安は、昨年秋以降、かなり落ち着いている。死亡した駐留外国軍兵士も1年前の3分の1だ。しかし国外に脱出したイラク人は200万人以上に昇り、特に知識人の待避が目立つ。政府は頭脳流出を避けるべく、旧体制派の政治復権を認めたが、この政策変更は政府の内部対立を招いている。イラクがどうなっているか、特に宗派対立と括れがちな衝突について、その原因と背景を本講義で解明していった。



沈 才彬

多摩大学教授・大学院教授

第4回 「中国の台頭と世界の潮流」

中国は今、急ピッチで台頭し日本を含む世界経済に強烈なインパクトを与えている。中国の政治・経済・社会構造にどんな変化が起きているか?素材とエネルギーを「爆食」する中国経済の行方はどうなるか?中国の抱える課題は何か?21世紀の日中関係のキーワードは何か?本講義では最新情報と適格な分析に基づき、本格的な現代中国論を展開した。



明石 康

特定非営利活動法人日本紛争予防センター会長・元国連事務次長

第7回 「アジアにおける紛争解決と平和」

冷戦期とポスト冷戦期の世界の違いは何だろうか。冷戦期にはイデオロギーがあり、米ソ両大国に代表される対立、核の恐怖が存在した。現在に至るポスト冷戦期は、カンボジア、東チモール、スリランカ等で頻発してきた一方、国連 PKO の活躍など新しい平和構築の試みがみられる。貧困やエイズなどの感染症、人口や環境問題、さらにはテロリズムや国際犯罪といった諸問題に横たわる紛争原因を明らかにし、解決策の様々を紹介するとともに、アジアと世界平和に積極的に参画する日本の姿勢を提起した。



浅野 史郎

慶應義塾大学総合政策学部教授

第9回 「地方から変わる日本」

日本に本物の民主主義を根付かせるためには、地方自治の世界での変革が必要である。「地方自治は、民主主義の学校である」ということの意味を明らかに示した。民主主義とは、所詮お金の問題である。自分が税金を払っている自治体に関心を持ち、必要なら行動もすること。本講義では、民主主義が機能するための条件として、情報公開と NPO の意義、選挙の重要性についても強調した。



中谷 巖

多摩大学名誉学長・ルネッサンスセンター長 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社理事長

第10回 「日本文明の将来」

現代 G7 諸国の中で、日本は唯一「非キリスト教国」である。このことが意味するものは何か。次に、日本が地政学的、歴史的現実が生んだ「日本文明のユニークさ」に注目する。「戦略の文化」ではなく、「配慮の文化」を育んだ日本文明は、地球環境劣化、エネルギーや水不足、拡大する格差問題などに悩む 21 世紀世界に対していかなる意味を持ちうるのか。文明的視点から日本の将来について展望した。

その他のリレー講座 講師一覧

金 美德	(株)三井物産戦略研究所 海外情報室研究員	第5回 「今、朝鮮半島をどう考えるか」
寺島 実郎	(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長 多摩大学将来構想委員会座長	第6回 「21世紀の日本の内なる変化 経済、政治、社会構造の変化(分配の格差)」
江川 紹子	ジャーナリスト	第8回 「新聞の読み方・テレビの見方」
堀田 力	さわやか福祉財団理事長・弁護士	第11回 「地球規模で日本の少子高齢化を解析する」
寺島 実郎	(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長 多摩大学将来構想委員会座長	第12回 「春学期リレー講座の総括と問題意識の確認」

秋学期も開講します。

期間:9月~12月(全12回) 秋学期は別途お申し込みが必要です。詳細が決まり次第お知らせいたします。

秋学期講師予定者

- 山内昌之 東京大学大学院総合文化研究科教授
- 姜 尚中 東京大学情報学環教授
- 榊原英資 早稲田大学インド経済研究所所長
- ほか

News

オリンピック女子サッカー代表メンバーに卒業生の原 歩さん選ばれる！

2008年北京オリンピック女子サッカー「なでしこジャパン(日本女子代表チーム)」メンバーに多摩大学卒業生の原 歩さん(9期生)が選ばれた。原さんから多摩大学へメッセージが届いた。「サッカーは在学中から続けてきて、先生方からも沢山の応援をしてもらいました。オリンピックに初出場できて光栄に思います。とにかく試合に出場して日本の女子サッカーに貢献したいと思います。夢は追いかけて続ければ絶対に叶うものです。皆さんもがんばってください！」
多摩大学は、世界にはばたく原 歩さんを応援します！



Soccer business experience

横浜 FC とのパートナーシップで実現した
プロサッカービジネス体験

多摩大学サッカービジネスプロジェクト始動

多摩大学は平成 20 年より横浜 FC とオフィシャルパートナーシップを結び、サッカービジネスプロジェクトをスタートさせた。横浜 FC は地元密着のクラブ運営としても成功し、その優れたビジネスモデルは他のスポーツ分野からも注目されている。経営情報学部では、問題解決力のための実践的な学びの場として横浜 FC とパートナーシップを結び、さまざまなプロジェクトを展開している。





多摩大学マッチ DAY

8月30日(土)に行われる「多摩大学マッチ DAY」に向け、有志の学生が集まって準備を進めている。その中心となっているのが、「多摩大サポーターズ」のメンバー。日ごろ、多摩大学を盛り上げ、高校生に多摩大学のよさを知ってもらうことを目的に活動する学生主体のPR集団だ。今回は多摩大学マッチ DAYの成功に向け、企画の立案から運営までを担っている。横浜FCとの細かな調整を繰り返しながら、「どうすれば動員数を増やすことができるのか」、「観客に、よりゲームを楽しんでもらえる方法は何か」といった課題に取り組んできた。多摩大学マッチ DAYの主役はフィールドを駆けめぐる選手たちであり、スタンドの観客を一体にする多摩大学の学生でもあるのだ。

[多摩大学マッチ DAY]

スタジアムを青く染めよう!

■ 8月30日(土)

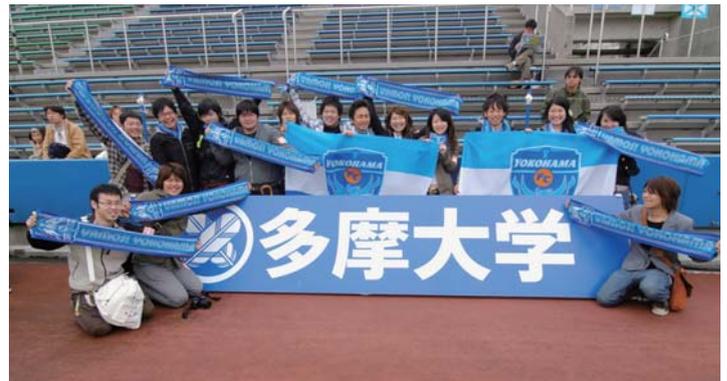
18:00 キックオフ

■ ニッパツ三ツ沢球技場

■ 15:30 受付開始

★受付場所 多摩大学特設ブース
高校生無料招待(A自由席)

多摩大学マッチ DAY ホームページ
<http://www.tama.ac.jp/yokohamafc/>



スポーツビジネスゼミ

横浜FCとのオフィシャルパートナーシップの一環として、2つのゼミナールを開講した。一方は「エリアマーケティング」を中心に、もう一方は「イベント企画」を中心として、横浜FCのビジネスモデルを実践的に学ぶ。サッカービジネスに興味のある学生と経験豊かな先生、双方向のゼミナールで、横浜FCの運営に携わる実習体験を通し、スポーツビジネスの実態を学んでいく。単にマーケティングの知識や手法を学ぶにとどまらず、スポーツビジネス全体、ひいてはビジネスというものの構造全体を実体験を通じて学ぶプログラムになっている。実際のビジネスに関わりながら、自分が当事者となって自主的、行動的に活動するという意識をもつことを目的としている。

インターンシップ

多くの大学で実施されている企業実習体験、いわゆるインターンシップは、今や「質」の時代だ。そこで多摩大学では、いち早くスポーツビジネスに目を向け、日本の大学のなかでは前衛的に、プロサッカーチームとのオフィシャルパートナーシップを結んだ。学生は夏休みの2週間を横浜FCのスタッフの一員として過ごし、試合までの準備や試合当日の運営を体験する。そして実際の「現場」の実務を通して、リアルなプロサッカービジネスを知ることがねらいだ。スポーツが好きな人ならだれでも憧れるプロチームの世界。しかし華やかな舞台の裏側にあるチーム運営を目の当たりにし、さまざまな業務の「仕事の目的」を学生それぞれが捉えることで、インターンシップの体験がより深いものとなる。

Project Seminar プロジェクトゼミナール紹介

多摩大学の独自の取り組みとして象徴的なものに、ゼミを中心とした授業がある。ホームゼミナールとプロジェクトゼミナール（EXゼミナール）という形態の異なる2タイプのゼミでは、講義や実習、グループセッションを通して基礎能力や思考力、行動力を身につけていく。

○ホームゼミナール

専門分野のエキスパートである教員の指導やサポートを受けながら、学生がそれぞれ興味・関心のあるテーマを選択し、自主的に探求・研究していく演習型授業。他大学では通常、3年次に始まる『専門ゼミ』に相当するが、多摩大学では2年次からスタートする。少人数グループでの討論・発表を通して、コミュニケーションとプレゼンテーションの能力を培う。

○プロジェクトゼミナール

多摩大学の教員だけでなく、学外の研究者や専門家、経済界のキーパーソンたちも講師として参加する。学問体系に縛られない現実的でユニークなテーマを掲げて開講する多摩大学独自の問題解決型ゼミナール。コンピュータサイエンスの基礎理論から新規事業の企画・提案まで、様々な分野の問題に自由なスタイルで取り組む。実学に近いスタンスでプロジェクト志向を身につけ、授業の中でビジネスを実感できるのも特長だ。

2008年度 プロジェクトゼミナール一覧

テーマ	担当教員	ゼミナール
地域密着型の経営と エリア・マーケティング	相原 正道	◇春学期:横浜FCのエリア・マーケティングのデータ収集と分析 ◇秋学期:横浜FCの地域密着型のマーケティング戦略策定
ゲームデーのイベント企画と 実践・運営	江頭 満正	◇春学期:横浜FC多摩大学デーの企画と提案 ◇秋学期:横浜FC多摩大学デーの企画と実施
携帯端末を用いた仮想・混合・ 拡張現実感の提供システムの開発	田中 雄	◇春学期:携帯端末のプログラミング ◇秋学期:バーチャルリアリティソフトウェアの開発
「食」と地域ビジネス	中庭 光彦	◇春学期:フードビジネスとソーシャルマーケティングⅠ ◇秋学期:フードビジネスとソーシャルマーケティングⅡ
「商店街」と地域ビジネス	片桐 徹也	◇春学期:ニュータウン商店街のビジネス開発Ⅰ ◇秋学期:ニュータウン商店街のビジネス開発Ⅱ
価値化マーケティングの実践	笠原 秀隆	◇春学期:コンサルティング営業 ◇秋学期:企画・提案の実践
ニーズ視点の商品開発と実践	大風 薫	◇春学期:ニーズ視点によるヒット商品開発 ◇秋学期:食品メーカーにおける新製品開発の実践
INPUT(理論)とOUTPUT(実践)による 知的プロフェッショナルへの挑戦	酒井 麻衣子・ トランスコスモス	◇春学期:実践 知的プロフェッショナルゼミナールⅠ ◇秋学期:実践 知的プロフェッショナルゼミナールⅡ
データマイニングと その応用・観力養成	馬場 康雄	◇春学期:データマイニングとその応用・観力養成Ⅰ ◇秋学期:データマイニングとその応用・観力養成Ⅱ
メディア発信法 ～メディアを創る、企画、取材から表現へ～	木村 知義	◇春学期:メディアを創るⅠ～インタビューとレポート番組の制作～ ◇秋学期:メディアを創るⅡ～番組の企画、制作とインターネットラジオでの発信～
ビジネスと環境対策	菅野 光公	◇春学期:ビジネスと地球環境 ◇秋学期:地球環境保全とエネルギー政策
国際ビジネス・コミュニケーション	稲葉 稔	◇国際ビジネス・コミュニケーション入門
Cultural identity and comparison using visual Methods (visual tools)	ジム・ハサウェイ	◇春学期:How do we see? /どのようにして見るか? ◇秋学期:Westernization・Modernization /西洋化・近代化
日本のビジネス文化が 世界をリードする	竹村 之宏	◇春学期:人にやさしい日本型経営を生かす ◇秋学期:リーダーシップを身につける
クラシック名作映画をみて 人生を考え、広告コピーを創作する	大槻 博	◇春学期:古典的名作映画に見る死生観から広告コピーの創作へ ◇秋学期:クラシック映画に見る人生哲学から広告コピーの創作へ

多摩大学所在地である多摩ニュータウン地域に着目し、「多摩の地域ビジネス」をテーマとしたプロジェクトゼミナールを松本祐一准教授がコーディネート。中庭光彦先生は「食」、片桐徹也先生は「商店街」の側面から地域ビジネスを講義する。地域の方々のゼミへの参加やフィールドワークなど、講義のほかにも実体験を取り入れた授業が年間を通して展開される。

多摩の地域ビジネス



コーディネーター 松本 祐一

地域ビジネスを大学のある多摩ニュータウンという地域で、学生に学んでもらいたいというのがゼミの目的だ。経営を学ぶために必要なものは、「現場への参加」「役割と成果」「フィードバック」である。「食と地域ビジネス」「商店街と地域ビジネス」2つのゼミを隔週で行い、連動して成り立っていく。答えはないし、やってみなければわからない。そして講師が一方向的に教えることはないから、学生が現場で学んでいくことになる。このような体験はなかなか体験できないことから、ぜひ地域に何かを残して卒業してほしいし、地域をよくするために学生に力を貸してもらいたい。



「食」と地域ビジネス

講師 中庭 光彦

- 春学期：フードビジネスとソーシャルマーケティング ①
- 秋学期：フードビジネスとソーシャルマーケティング ②



中庭先生はソーシャルマーケティング系の地域プランナー。ソーシャルマーケティングとは、マーケティングの手法を社会的な問題解決に応用すること。多摩ニュータウン地域をマーケティングの手法を使って、「食」という視点から見ている。歩いて20分ほどの諏訪・永山地区でのフィールドワークも予定。地域の中で消費者の目線になって「食」を考えていくと、様々な課題が見えてくる。それを自分で選び、対策を考えていくことが大切だ。食のシステムと地域づくりの関係を理解し、具体的な事例の分析とディスカッションを通じて、街づくりのプランを立案していこうというのがゼミの目標である。

「商店街」と地域ビジネス

講師 片桐 徹也

- 春学期：ニュータウン商店街のビジネス開発 ①
- 秋学期：ニュータウン商店街のビジネス開発 ②



片桐先生は公共事業のコンサルティングを専門とする。ゼミでは、諏訪・永山地区地域の中で近隣センター（商店街）の経営が成り立っていくにはどうしたらよいかを考えていく。春学期では7月5・6日に商店街と地域の人が行う七夕祭に学生が参加し一部を企画、住民が楽しめるようなものは何かをリサーチし、地域に必要なものは何か、そしてなぜこのような祭を実施するのかを考えながら実践する。秋学期は、PPP (Public Private Partnership) を取り入れると街づくりは何ができるのか、官と民がパートナーシップを組んで街の経営をするというのはどのようなことなのかを講義していく。



University for a walk around

多摩キャンパス

地域と大学

001

多摩キャンパス周辺にある公園や史跡、歴史と由来を調べてみました。

多摩の歴史と四季を豊かに彩る。



多摩キャンパスから北へ 500 m ほどの場所にある都立桜ヶ丘公園は、面積約 280 m²。桜の名所としても知られるが、初夏の新緑、秋の紅葉も色鮮やかで、野草や昆虫、野鳥とも出合える自然の宝庫だ。公園内にある「旧多摩聖蹟記念館」は 1930 年に建てられた円形の珍しい建築物で、多摩市指定有形文化財にも指定されている。

キャンパス東側にある天王の森は標高 161.72 m、一等三角点がある市内最高地。眺望が良く、江戸時代にはここから東京港の舟の白帆が見えたとも。「天王の森から見える多摩ニュータウンと富士山」は、新東京百景のひとつにもなっている。一帯は昔、樹木が生い茂る山で、1880 年代（明治時代初期）に明治天皇が兎狩りと鮎漁で 4 回訪れたという。周辺地域の地名は、古くは武蔵国多摩郡日野領小山田庄、後に神奈川県多摩郡連光寺村、東京府南多摩郡多摩村大字連光寺（明治 22 年市町村制施行）、多摩町大字連光寺（昭和 39 年町制施行）、1971 年（昭和 46 年）市制施行により多摩市大字連光寺へと変化。「聖ヶ丘」の地名は、1980 年（昭和 55 年）多摩ニュータウンの建設に伴う町名地番整理により誕生した。



①



③



②



④

- ① 都立桜ヶ丘公園
- ② 旧多摩聖蹟記念館
- ③ 八坂神社
本社は京都祇園の祇園天王社。祭神はスサノオノミコト、別名牛頭天王。「天王の森」の名は、天王社がある森に由来する。
- ④ スタジアム
高さ 17 m、根回り 4.6 m、枝張り約 11 m、樹齢 400 年の多摩市指定天然記念物。

Information

次号の「地域と大学」では、ジブリアニメ「耳をすませば」の舞台となった桜ヶ丘周辺を散歩します。多摩大学の学生もゼミでイベントを企画しました。



Rapport

Number .063

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 プリント永山
発行日 2008年8月20日

<http://www.tama.ac.jp/>



Contents

News

多摩大学マッチ DAY 行われる! P.02

多摩大学公開講座
寺島実郎監修リレー講座
現代世界解析講座が開講 P.03

特集 2008 オープンキャンパス
多摩大学を紹介します P.04

プロジェクトゼミナール報告
多摩の地域ビジネス/出原ゼミ P.06
多摩大学サッカービジネスプロジェクト

地域と大学 「耳すま」の風景 P.08

News

多摩大学マッチ DAY2008 サッカービジネスプロジェクト始動!

2008年8月30日(土)にニッパツ三ツ沢球技場で多摩大学マッチ DAY2008が行われました。多摩大学は2008年度より横浜FCとオフィシャルパートナーシップを結び、サッカービジネスプロジェクトをスタートさせました。マッチ DAYはその一環で横浜FCのホームゲームを多摩大学サポーターズの学生達が企画・運営サポートを行いました。当日は学生デザインのスタッフTシャツを着た学生達がチケットの配布や多摩大学ブースの運営を行い、多摩大学のアピールを行いました。



試合開始前の練習を盛り上げる多摩大サポーターズ

多摩キャンパス図書館リニューアル 学生たちが集う「知のスペース」へ

2008年9月19日(金)に多摩キャンパス図書館がリニューアルオープンしました。今回のリニューアルでは館内に居ながら飲み物を飲んで一息できる「リフレッシュラウンジ」、学生が自由にセミナーやガイダンスを開催することのできる「セミナールーム」を新たに設置しました。「セミナールームにはプロジェクタや壁一面のホワイトボードなど議論に必要なものは全て揃えています。学生同士の議論の場として活用してほしいです」と MIC LSS 宮澤係長は語りました。



多摩丘陵を一望できるリフレッシュラウンジ

メールシステムに Gmail を採用 卒業後も利用可能に

多摩大学の学生・教職員のメールシステムが Gmail に変更になりました。Gmail (ジメール) とは Google が開発した世界標準のメールシステムです。一人あたりのメールボックスが 6.5GB に拡張され、卒業後の利用も可能になりました。担当の MIC MSS 公平主任は「世界標準である Gmail をメールシステムに採用したことで今まで以上に安定したメール運用が可能になりました。GoogleApps を利用した個人ポータルサイトが持てますので是非活用してほしいですね」と語りました。



カスタマイズ可能なポータルサイト

多摩キャンパス KTC 運動行われる 清潔な快適な学習環境作りへ

多摩大学多摩キャンパスで KTC 運動が 10月16日(木)に行われました。多摩大学では以前よりたばこの分煙化を徹底するとともに、ゴミやタバコのポイ捨てを無くすなど、清潔で快適な学習環境作りにつとめてきました。2004年7月から毎月 KTC (Keep Tama university Clean) 運動の日を設け、学生・教職員が全学一丸となり、学内だけでなく近隣住宅街のゴミの清掃も行っています。今回の KTC でも多くの学生・教職員が参加し、ゴミ清掃を行いました。



学内を清掃する学生の様子

望月照彦ゼミ夏合宿 三浦市での提言が高く評価

8月5日(火)～6日(水)に経営情報学部望月ゼミが神奈川県三浦市で夏合宿を行いました。今回の合宿のテーマは「観光戦略企画立案」。望月ゼミ生がフィールドワーク、講義を通して集めた情報を元に三浦市に対して提言を行いました。提言は「市内各所に残る昭和の街並み」「三崎港の利活用」等を題材に自転車レースやマグロ漁業を観光に生かす「漁業オリンピック」といった斬新なアイデアも発表されました。発表では三浦市の杉山実副市長や東武トラベルの方などが審査を行い、高く評価されました。



望月ゼミ合宿発表の様子

野田ゼミ・浜田ゼミ合同合宿 2008年夏のジャンボリー開催

9月6日(土)・7日(日)に経営情報学部野田ゼミ・浜田正幸ゼミ合同の合宿が長野県白樺湖にて行われました。毎年恒例のゼミ合宿ですが今年は野田先生が経営する JFeel 主催の「夏のジャンボリー」も行われ、多摩大学大学院、明治大学大学院、慶応 MCC、その他企業の方の約 200 名が一同に集まり、組織・人事・人材育成に係る話題や課題を議論しました。その他ゼミの研究と合わせてプレゼンテーション大会も行われ、多摩大学の口コミによるプロモーション案や AIDS を認知させるための活動案など具体的な提案が発表され、高く評価されました。



グループワークの様子

多摩大学公開講座 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座

いま、世界潮流と日本のあり方を考える

多摩大学将来構想委員会の寺島実郎座長が、「世界潮流と日本の進路」をテーマにリレー講座形式による通年の体系的なプログラムを今年4月より開催している。国際情勢や経済、国内行政等の各分野における精鋭の専門家を多摩大学に招き、通年で全24回、多摩大学1年生は必修履修単位として、また一般社会人の聴講生、他大学の学生、約600名を対象として講義を行う。春学期は皆勤賞が104名出るほどの好評を博して終了、秋学期は9月25日よりスタートした。



(秋学期の募集は定員に達したため終了致しました。たくさんのご応募ありがとうございました)



監修 寺島実郎

多摩大学将来構想委員会座長 (財)日本総合研究所会長 (株)三井物産戦略研究所所長

PROFILLE

1947年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程終了後、三井物産入社。米国勤務等を経て99年より三井物産戦略研究所所長。01年日本総合研究所理事長、06年より会長。現在三井物産常務執行役員、文科省中教審委員、経産省情報セキュリティ基本問題委員会委員長など兼任。近著に『二十世紀から何を学ぶか』、『脳力のレッスンII』ほか。

リレー講座 講師予定表		
第1回	寺島実郎 (財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長	いま、米国をどうとらえるか -アメリカ論
第2回	山内昌之 東京大学大学院総合文化研究科教授	中東政治と国際関係の新しい構造 -日本とイスラーム世界の構図
第3回	沈才彬 多摩大学教授・大学院教授	北京オリンピック後の中国経済の行方
第4回	姜尚中 東京大学大学院情報学環教授	東北アジア・コモンハウスの展望
第5回	都甲岳洋 株式会社三井物産戦略研究所特別顧問、元駐ロシア大使	ロシアの新体制と日露関係
第6回	榊原英資 早稲田大学教授	世界同時不況
第7回	寺島実郎 (財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長	ユーラシアのダイナミズムと日本
第8回	中村桂子 JT生命誌研究館館長	生命を基本に現代文明を見直す
第9回	佐高信 評論家	日本の権力構造
第10回	橋木俊詔 同志社大学経済学部教授	格差社会の行方
第11回	尾木直樹 教育評論家、法政大学キャリアデザイン学部教授	日本の子どもと教育 -世界潮流の中で-
第12回	寺島実郎 (財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所所長	リレー講座全24回の総括と問題意識の確認

インターンシップ体験インタビュー

経営情報学部では平成10年度からインターンシップ制度を導入し今年で11年目を迎えました。また、グローバルスタディーズ学部は今年から導入し、両学部合わせて約150名がインターンシップに参加しました。今回は就職活動を間近に控えた経営情報学部3年生にインターンシップの感想を聞きました。

熱田遼君はプロサッカーチームJ2の横浜FC(横浜フリエスポーツクラブ)にて8月25日~9月5日まで実習を行い、スポーツがビジネスとして成り立つ内側を垣間見てきました。「私は何らかの形でスポーツに関わることの出来る企業に将来就職したくて、迷わず横浜FCを選びました。横浜FCの方々は、私達インターン生が浴け込みやすい雰囲気を作ってくださり、仕事が非常にやりやすく充実した2週間を過ごすことができました。ここが一番成長出来たかな?と思った事は、与えられた仕事をこなす上で、今の状況で自分がどうやって動いたら効率良く仕事をこなせるかという事を、周りを見て、すばやく状況判断をして行動できるようになった点だと思います。そして、ただ

早いだけでなく、丁寧かつ正確にこなすといった事も次第に出来るようになり、そのことが自信につながり、就職活動に対する意欲が以前よりも増したような気がします」

平岡知夏さんは玩具育児用品の小売店である日本トイザラスにて8月18日~8月29日まで実習を行いました。「実習では日本トイザラスの『企業説明会用の資料作成』という課題が与えられました。会社の魅力や小売業について研究しながら、他社との比較や、外部で開催されていた3年生向け合同企業説明会に参加して準備をしました。日本トイザラスの店舗見学では、実際に働いている社員の方々にヒヤリングをしてコミュニケーション能力やリーダーシップの大切さを学びました。最終日には大学のゼミでの経験と私の個性を十分に活かし、人事採用課の人になりきってプレゼンテーションを行い、お褒めの言葉を頂きました。何かする時に結果まで考えて行動出来るようになったことがインターンシップにおける成果です。この夏の出会いや経験に感謝して、失敗を恐れずチャレンジスピリットを持って就職活動に挑戦したいと思います」

TAMA UNIVERSITY Open Campus



2008 オープンキャンパス
多摩大学を紹介します



「ようこそ多摩大学へ。多摩キャンパスをたのしんでください」



在校生が自分の大学生活を紹介。高校生は興味津々。



8月24日に開催された「多摩大博覧会 2008」。「からくり遊園地コンテスト」には多摩大齋藤Tゼミ4チームと大妻女子大1チームが参加。写真はCチームの学生、作品は電動の『無限ループ』



出張ゼミの学生たち。3年生の川越聡君(左)はジャンプするとモニターの中の気球が上昇する作品を開発。IVRC2008に出展した。



大学は自分の目と耳でしっかりと知ることが大切。



先生方が一人一人の疑問に答えてくれる。



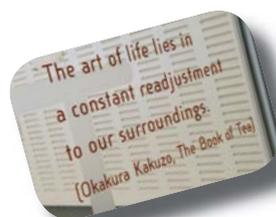


多摩大学では、6月から3月まで月に1～2回、8月は3回、オープンキャンパスを開催している。大学の授業を受けたり、在校生の声を聞いたり、学食を体験したり、キャンパスを見学したり、高校生にとっては大学選びのポイントとなる大切な機会だ。経営情報学部がある多摩キャンパスでは、学部学科説明会の会場で学生がキャンパスライフや横浜FCサッカービジネスプロジェ

クトを紹介。模擬授業や学食体験、キャンパスツアーなどを開催した。またグローバルスタディーズ学部がある湘南キャンパスでは、学部説明会の後、パネルディスカッションで学生が大学生活を応答。模擬授業+英語でQ & A、キャンパスツアー、ランチタイムとティータイムを開催した。紙面では、多くの高校生たちが来場した8月のオープンキャンパスの様子を紹介する。



受付で登録。本日のスケジュールが伝えられる。



校舎のところどころに英語のメッセージが記されている。好きな言葉を見つけよう。



自然光を取り入れたスタイリッシュな校舎、中庭が見えるラウンジ、メッセージボードなど。湘南キャンパスは知れば知るほどおもしろい。



キャンパスツアー
集合場所。
「僕たちがご案内
します」



グローバルスタディーズ学部では、どの授業も英語で進行する。模擬授業で英語体験に挑戦してみよう。



Project Seminar プロジェクトゼミナール報告

松本祐一准教授がコーディネートする「多摩の地域ビジネス」をテーマとしたプロジェクトゼミナール。春学期は7月5日、6日に諏訪商店街で開催される「七夕フェスタ」を念頭に中庭光彦先生、片桐徹也先生により授業が進められた。

諏訪商店街の祭である「七夕フェスタ」は、昨年大学生参加のもと

に復活した祭で、多摩大は初めての参加となる。他にも法政、大妻、国士館の大学生やNPOなどが参加し、カフェ、大道芸、子供遊び場、ビンゴ大会などのイベントが繰り広げられ、ゼミ生達は「ふれあい七輪ひろば」の企画・運営で参加した。成果と課題は報告書としてまとめ、7月16日に多摩市職員や地域住民を招いて報告会を行った。

「食」と地域ビジネス

講師 中庭 光彦

フードビジネスとソーシャルマーケティング①

■ 4/23 食の流通システムについて、稲城の梨農家を例に解説。食のビジネスを理解するためには、生産・流通・商品それぞれの現場を調べる必要がある。ゼミでは多摩ニュータウンがその現場となる。諏訪永山地域の商店街の歴史と移り変わり、そして現状を把握し、7月5日、6日に開催される七夕フェスタのイベントプランニングの方法を考えた。「イベントは手段であり目的ではない。目的と効果を明確にする必要がある。この気持ちをこれからの作業で忘れないように」と先生は強調した。

■ 5/7 諏訪商店街の核となるスーパーマーケットが1年前に閉店した。それを踏まえて授業では、「諏訪地区住民にとっての食の課題」をソーシャルマーケティングの視点で調べ、改善策を企画していく。また挨拶、質問の目的、お礼の一言、視線などヒアリングの方法を学生同士で体験し学んだ。

■ 5/21 「地域づくりのコーディネーターとして、地域における外食産業の意味を考えよう」と外食産業の分類から授業が始まった。

■ 6/4 「秋田漁業組合のハタハタ漁」「滋賀県長浜の黒壁スクエア」、2つの事例から自分達で地域の問題を考え解決していく過程を紹介。営業店舗が減少している諏訪商店街の問題について、学生達はそれぞれの考えをディベート形式で討論した。

■ 6/18 教室にパルシステム生活協同組合「東京マイコープ」の方3名を招き、生協の概念、社会的役割、歴史、生協の地域活動などについて話を聞いた。産直エンジンの試食もあり、食の安全や国内自給率について問われる今、食を考える貴重な時間となった。

■ 7/9 七夕フェスタを振り返り、気付いた点、目的どおり実施できたかなど、自分なりの評価を話し合った。学生達は「計画と実際とは違いがあった。来年からは準備をしっかりとしたい」「商店の人たちとの打ち解けたコミュニケーションには時間が必要だと思った」「対応がいい、来年も実施して欲しいというお客様の言葉が嬉しかった」「普段接することのない世代と話ができてよかった」などそれぞれの感想を述べた。春学期のゼミで学生達はイベントを通じて地域の調査を行い、課題を明らかにし提案まで行う手法を体感した。報告会に参加した地域の方からは、「やっぱり多摩大の学生は一味違うわ(笑)」と期待の声も聞かれ、学生達にとって励みとなった。



「商店街」と地域ビジネス

講師 片桐 徹也

ニュータウン商店街のビジネス開発①

■ 4/30 多摩ニュータウン諏訪名店街の概況、諏訪・永山地区の高齢化率を図やグラフで分析。社会問題としての高齢化について原因と影響を考察した。また個人所得水準と商業集積水準のグラフから多摩市の所得水準を導き出し、ビジネスのヒントとした。3時限目は歩いて20分ほどの諏訪・永山地区を訪れ、商店街の現状を確認した。

■ 5/14 地域資源をテーマに講義が行われた。地域資源の活かし方となぜ祭を行うのか、イベントの企画・運営についてもディスカッション。イベントを成功させるためにはニーズを調べ、現状を把握し、目的・手段を決めていく。昨年の七夕フェスタでの学生の活動や来場者の様子が映像で解説された。

■ 5/21 3時限目は諏訪名店街のすくらんぶる一むで、地域で老人クラブを運営する福田正夫さんの話を聞き、学生は一人一問初めてのヒアリングを行った。地域でイベントをコーディネートする学生にとって、貴重な触れ合いとなった。

■ 5/28 2時限目の授業は諏訪名店街「すくらんぶる一む」にて、京王電鉄株式会社開発企画部の方2名を迎えて行われた。「沿線鉄道事業と地域マネジメント」をテーマに京王線沿線の住宅開発について映像資料を示しながら解説された。

■ 6/11 「七夕フェスタ」の準備やスケジュール、運営、分担などについて具体的に話し合いがされた。多摩大が企画・運営を担当する出店は「ふれあい七輪ひろば」とネーミング、家族や地域の人たちが集まり多世代が交流するソフトな雰囲気イメージした。

■ 6/25 6月17日は諏訪中学校で総合の時間を利用し、諏訪中学校1年生100名に多摩、法政、大妻の大学生、地域の高齢者などが参加して七夕飾りを制作した。25日は商店会会長の指導のもとに学生達は商店街の飾りつけを行った。「失敗は許されない。気合を入れて自主的に行動すること」と先生からは実施に向けて必要な心構えが学生達に伝えられた。

■ 7/2 「ふれあい七輪ひろば」の運営、設営、調査に関する様々な打ち合わせが行われた。「学生は単に出店・参加しているだけでなく、授業の成果を活かしながら様々な交渉や地域住民との交流の成果を調査することが課題」と片桐先生はイベントの主旨を見失うことがないようにサポートし、中庭先生は来店者アンケートの項目やタイミングなどの再確認を促した。

出原 ゼミ

「Popping-Pump」でフランスへ

経営情報学部 4年 藤田 倫太郎 君

自転車のタイヤに空気を入れるようにポンプを上下させていると、画面の中にある風船が膨らんでいく。さらに空気を入れ続けると音を立てて破裂。不思議なバーチャル体験ができる作品「Popping-Pump (ポッピング パンプ)」。藤田倫太郎君は2007年8～9月に開催された第15回IVRC2007(バーチャルリアリティコンテスト2007)東京予選大会で、個人部門優秀賞を受賞した。出品者には工学系大学院生が多いが、その中でもユニークな発想と技術力は審査員から高い評価を得た。作品は11月に岐阜県で開催された本大会に招待出展し、今年4月にはヨーロッパ最大のVRのイベントであるフランスのLaval Virtual学生コンテストに招待参加をした。フランスでは作品を体験した現地の人たちから率直な意見を聞くことができ、フランスの学生からも作品に関するアドバイスをもらった。海外での体験は刺激になったという。仲良くなったフランスの学生とは、大会が終わってからも交流が続いている。

PCへのプログラミングや画像処理など制作の過程では設計どおりに開発が進まず失敗もあったが、一つ一つ乗り越えてできた作品。評価されてよかったし、うれしい。2年生から選択した出原ゼミは、自分のやりたいことに応えてくれた。学生生活はゼミに重点を置き、夏休みも含め多くの時間を作品開発に費やしてきたという。IT関連の会社に就職も決まり、充実した大学生活だったと満足。社会的貢献ができるものにと「P-P」はさらにバージョンアップを目指し、今も進化を続けている。

出原ゼミでは、引き出しの中の小さな世界「Dis-Tansu」でIVRC2003年全国大会出展、Laval Virtual 2004(フランス)出展、SIGGRAPH2004(アメリカ)、IMAGINA 2005(モナコ)出展。出原至道准教授は「夢を実現させていく過程がたのしい。いろいろなアイデアを持つ人と交流することで、自分の世界が開ける」と授業で学生達に話した。



多摩大学サッカービジネスプロジェクト

横浜 FC のホームゲームをプロデュース

多摩大サポーターズ

8月30日(土)は「多摩大学マッチ DAY」。いよいよ多摩大学サッカープロジェクトが始動した。ニッパツ三ツ沢球技場で開催された横浜 FC 対モンテディオ山形戦は18時キックオフ。多摩大サポーターズとインターンシップの学生は40名。試合を盛り上げるために様々な企画を考え実践してきた。サポーターズの学生達が着ている揃いのスカイブルーのTシャツ。Tシャツコンテストを開催し、優勝した1年生がPCを使って制作したものだ。多摩大を知ってもらうために高校生向け携帯サイトのメルマガ登録も行っている。マッチ DAY は「スペシャルグッズが当たる大抽選会」を開催。景品には三浦知良選手や山田卓也選手のサイン入りユニフォームやボールなどを用意した。会場での作業やイベント開催については、横浜 FC 企画部の藤原兼蔵さんと意見交換をしながら進めてきた。当日は受付や案内の他、球技場入口に設置したブースで写真やモニターを使って多摩大をアピールする。また授業の一環であるインターンシップの学生たちは、横浜 FC の一員となり誘導や警備など気を引き締めて職場を体験した。



University for a walk around

多摩キャンパス

地域と大学

002

聖蹟桜ヶ丘でアニメ映画「耳をすませば」の風景をたずねました。



街には静かにやさしく時が流れる。

聖蹟桜ヶ丘駅から南口商店街を通り急斜面のいほは坂を上っていくと街を一望できる場所がある。さらに坂の途中にある階段を上れば閑静な住宅街、その先にはロータリーと外壁がピンク色の交番。アニメ映画「耳をすませば」(近藤喜文監督・1995年7月スタジオジブリ製作)を思い起こさせる。物語の舞台は聖蹟桜ヶ丘周辺。映画をプロデュースした宮崎駿監督が日本アニメーション(多摩市和田)に勤めていた頃に徹夜明けで見た風景が元になっているという。

2005年7月、映画の公開から10周年を記念した無料上映会が多摩市内の公民館や中学校3ヶ所で開催された。上映会の企画・運営に当たったのは、多摩大2年生のプロジェクトゼミ「映画でまちおこし」(大川新人ゼミ)。当時多摩大経営情報学部3年だった「耳すま」が大好きな鴨川美紀さんの提案がきっかけで実現したゼミだ。鴨川さんはティーチングアシスタントとしてゼミ生のサポート役を務めた。ゼミでは地元商店街の活性化と世代間交流を目的とし、スタンプラリーやロケ地ツアー、背景画展などのイベントも開催した。12月には中央商店会主催で声優の本名陽子さんを招いて「第1回せいせきハートフルコンサート」が開催され、沖縄や九州などからもファンが訪れた。第4回は来年1月31日に開催予定だ。ゼミの活動が弾みとなり商店会では、現在もいくつかの「耳すま」企画が進行中だ。鴨川さんはこのときの活動を卒業論文のテーマとした。就職した今も都心から多摩市に通い、音楽支援活動や商店会の町おこし会議に参加している。



- ①坂の上から街を展望
- ②いほは坂
自転車で登るのはかなりきつい。
- ③ロータリー
そばには桜の木がある小さな公園も。ここは住宅街、風の音に耳をすませて静かに歩きたい。
- ④物語に出てくる階段
- ⑤駅前には案内板が立つ
- ⑥金比羅宮
- ⑦耳すまノート
洋菓子ノアさんに置かれたノートは16冊目。日本各地から耳すまファンが訪れ、メッセージを残していく。

Information

【学園祭のお知らせ】11月1日・2日多摩キャンパスにて「雲雀祭」、8日・9日湘南キャンパスにて「SGS Festival」が開催されます。どうぞご来場ください。



Rapport

Number.064

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 プリント永山
発行日 2008年10月27日

<http://www.tama.ac.jp/>

Contents

News

関東10ゼミ討論会で最優秀賞受賞 P.02

平成19年度田村学園概要
多摩大学フォーラム'08 P.03

特集

2008 学園祭
TAMA UNIVERSITY FESTIVAL P.04

ゼミナール情報

佐野ゼミ/江頭ゼミ/
トランスコスモス株式会社 P.06

地域と大学 キャンパスの青春
矢沢あいが描いた多摩キャンパス P.08

News

関東 10 ゼミ討論会 2008 豊田ゼミが最優秀賞を受賞!

毎年、日本マーケティング協会の支援により、関東圏内にあるマーケティングを専攻としている大学生が一堂に会し、一年を通じて研究活動を行う場として、関東 10 ゼミ討論会が開催されます。2008年度の討論会の最終成果として、2008年12月6日(土)早稲田大学にて、最終発表会が行われました。発表は41チームにより行われ、マーケティングの主要素4テーマごとに優秀賞および最優秀賞が選出され、見事 Product 班が優秀賞、Place 班が最優秀賞を受賞しました。(次号学生インタビュー)



Place 班発表の様子

ビジネスイノベーション 現役大学院生と共に合宿研修行われる。

2008年12月13日(土)から1泊2日でビジネスイノベーションの合宿研修が河口湖にて行われました。ビジネスイノベーションは多摩大学大学院 OB で現役の広告会社で勤めている野津聡氏が講師を務めているもので、社会人でもある現役大学院生3名がチューターとして参加しています。「仕事を通して社会貢献を果たす」ことの重要性を実践的に修得することがこの講義の目的でリアルな職場のフィールドワークが行われ、最後のまとめとして学んだ成果をいっそう深めるために合宿研修が行われました。



チューターの院生にインタビュー

アジア太平洋時代と大学の戦略 寺島実郎先生講演会行われる

2008年12月2日(火)に日本工業倶楽部(東京丸の内)で、多摩大学将来構想委員会・寺島実郎座長の特別講演会「アジア太平洋時代と大学の戦略」が行われ、経営情報学部後援会員など130名以上の方が参加しました。この講演会は大学院同窓会、経営情報学部同窓会・後援会が主催し実現されました。寺島座長は講演の中で、これからの大学戦略で重要なポイントとして「地政学的知」を挙げ、これからは欧米ではなく、ユーラシアへ目を向けていく必要があると熱く語りました。



講演を行う寺島座長

サッカービジネスプロジェクトゼミ RESPECT FOR SOCCER 行われる

2008年10月25日(土)に三ツ沢ニッパツ球技場で江頭満正ゼミ運営のイベント「RESPECT FOR SOCCER」が行われました。このイベントはJリーグの実際の試合時に、多摩大学学生が横浜FC側と交渉を重ね企画運営を行いました。当日の試合でサポーター宣誓やBLUE CHEER GOODSのプレゼント、フェイスシールのプレゼント、「ゴール」と叫んでいる様子がビジョンに映し出されるといったもの。当日は多くのサポーターが集まり、多摩大学ブースは大盛況でした。(7面にインタビュー)



ちびっ子達も沢山集まりました

多摩大学オープンキャンパス 2008 多くの参加者が集まり無事終了

2008年12月13日(土)に多摩キャンパス、湘南キャンパス共に2008年最後のオープンキャンパスが開催されました。今年のオープンキャンパスは全11回の日程で行われ、学生が主体となったイベント運営が行われました。実際の授業が体験できる模擬授業や学食体験、キャンパスツアー、入試相談など様々なプログラムが行われました。2009年新春はいつでも参加可能なパーソナルツアー(要事前予約)と1・2年生対象の3月22日(日)のオープンキャンパスが開催されます。



多くの学生スタッフが参加してくれました

頻発する大学生大麻事件について 多摩大学学生諸君へ

すでにご承知のことと思いますが、このところ東西の幾つかの大学において、大学生による“大麻”関連の事件が相次いで発生しております。マスコミ報道によれば、摘発された学生の中には「そんな重大な犯罪と思わず、軽い気持ちで・・・」手を染めたと告白している者が多いとのことですが、大麻に限らず全ての麻薬を使用することはもちろん、所持していることだけでも犯罪とみなされることを、くれぐれも忘れないでください。仮にそのことが発覚しなかったとしても、たった一度しかない人生にはいろいろな意味で取り返しのつかない傷あとを残すことになります。このような訴えは、本学学生諸君に対しては全く無用、かつ失礼なこととは信じつつも、学長代行として、敢えて一文を草した次第です。諸君の学生生活が明るく希望に満ちたものであることを、心から念願いたす次第です。

学長代行・名誉学長 野田 一夫

平成 19 年度 田村学園概要

多摩大学の形成母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。
最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

〔学校法人 田村学園 貸借対照表〕

貸借対照表

平成20年3月31日（平成19年度）

（単位 百万円）

資産の部	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	22,714	22,717	△ 3
有形固定資産	21,526	21,642	△ 116
土地	11,992	11,992	0
建物	8,267	8,288	△ 19
その他	1,267	1,364	△ 97
その他の固定資産	1,188	1,075	113
借地権	4	4	0
第2号基本金引当資産	900	800	100
その他	284	271	13
流動資産	2,436	2,700	△ 264
現金預金	1,413	1,107	306
その他	1,023	1,593	△ 570
資産の部合計	25,150	25,417	△ 267
負債の部			
固定負債	274	261	13
長期借入金	2	2	0
退職給付引当金	272	259	13
流動負債	1,200	1,110	90
短期借入金	1	40	△ 39
前受金	783	588	195
その他	416	482	△ 66
負債の部合計	1,474	1,371	103
基本金の部			
第1号基本金	28,506	28,256	250
第2号基本金	900	800	100
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	312	312	0
基本金の部合計	29,810	29,460	350
消費収支差額の部			
消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費収入超過額(又は翌年度繰越消費支出超過額)	△ 6,134	△ 5,414	△ 720
消費収支差額の部合計	△ 6,134	△ 5,414	△ 720
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	25,150	25,417	△ 267

〔平成19年度 計算書類多摩大学分 抜粋〕

〔資金収支内訳表〕

（資金収入）	（単位 百万円）
学生生徒等納付金収入	1,608
手数料収入	36
寄付金収入	61
補助金収入	244
資産運用収入	11
事業収入	331
雑収入	19
合計	2,310

〔資金支出〕

人件費支出	1,227
教育研究経費支出	783
管理経費支出	506
借入金等利息支出	0
施設関係支出	143
設備関係支出	85
合計	2,744

〔消費収支内訳表〕

（消費収入）	（単位 百万円）
学生生徒等納付金収入	1,608
手数料収入	36
寄付金収入	62
補助金収入	244
資産運用収入	11
事業収入	331
雑収入	19
雑収入合計	2,311
基本金組入額	△ 178
合計	2,133

〔消費支出〕

人件費支出	1,241
教育研究経費支出	971
管理経費支出	925
その他	4
合計	2,741

・学生・生徒等(人)	
田村学園全体	4,447
多摩大学 学部	
経営情報学部	1,396
グローバルスタディーズ学部	263
多摩大学 大学院	134
高校(2)・中学(2)・幼稚園(3)	2,654
・キャンパス面積(m)	
田村学園全体	115,980
多摩大学	44,914
その他	71,066

以上、平成20年5月1日 現在

<多摩大学建学の理念>

元号が昭和から平成に変わった1980年末から今日までの時代は、単に元号が変わったと言うにとどまらず、グローバル化と高度情報社会の進展という世界にわたる歴史的転換期でもある。多摩大学はまさにそういう時代の幕開けに創立された。
多摩大学の創立以来の理念は、国際性、学際性、実働性の三つのキーワードで表現される。

1. 国際性

日本は歴史上初めて、国全体が本格的なグローバル化の波に洗われている。
国内のみならず、国際社会で活躍できる人材、グローバル社会の一員として積極的な役割を果たす人材の育成が急務であるとの認識のもと、国際化のための教育カリキュラムの充実に取り組んでいる。

2. 学際性

行き過ぎた専門化の弊害を是正するため、多摩大学では学際的な研究・教育への取組を重視してきた。「経営情報学」は、経営学と情報技術の進展が密接不可分の関係にあることから生まれた学際的な領域である。この分野での研究・教育の実を挙げるべく、教授陣については経営学、情報分野の専門家を広く集めているのが大きな特徴である。

3. 実働性

大学に対する「象牙の塔」批判を克服すべく、多摩大学は「社会に適用する大学」を標榜してきた。とくに、経営情報学という学問分野においては、実践的な最先端知識とアカデミックな研究の融合が不可欠であることから、教授陣については、アカデミックなキャリアを有する人材のみならず、実業界での最先端の実績を持つ人材を数多く集めてきた。

多摩大学フォーラム '08

11月19日（水）グランドプリンスホテル赤坂にて「多摩大学フォーラム '08」を開催し、160社の企業の方々にご出席いただいた。第1部では、『少子化ニッポン 産官学のスクラムで人材育成』をテーマにパネルディスカッションを行った。パネリストは、タキヒヨー株式会社東京支店副支店長 青木正男氏、株式会社リアセック 松谷育代氏、株式会社アド・ベスト営業企画室長 野津聡氏（経営情報学部非常勤講師）の3名、コーディネーターは経営情報学部准教授 浜田正幸先生。学生を教育し社会に送り出す大学、面接の中から学生の本質を見出して採用する企業、企業と大学との間で就職と採用をコーディネートするサードパーティ、それぞれのスタンスから活発な意見が述べられた。中には現状への厳しい指摘もあり、大学に対しての要望、人材育成における課題について解決案や方法などが議論された。

第2部では採用等でお世話になっている人事担当の方々とはパネリスト、多摩大学教職員との懇談会を実施し、貴重な意見交換を行うと共に各企業の来年の採用方針をお聞きすることができた。



TAMA UNIVERSITY Festival



11月1日(土)・2日(日)の2日間、多摩キャンパスで「第20回雲雀祭」が開催された。ゼミやサークル主催の模擬店は本格手づくり餃子まで。縁日コーナーや力試しのハイスライカー、フワフワなどのアトラクションには親子連れが参加。アリーナでは和太鼓演奏や芸能人のお笑いライブなども行われ大盛況だった。

HIBARI FESTIVAL TAMA

経営情報学部



今年のテーマは、「和衷協同」～来て、見て、楽しむ学園祭～。同じ心で力を合わせて盛り上げた。





テーマは、異文化を体感する「グローバルで手作りのフェスティバル」



湘南キャンパスでは11月8日(土)・9日(日)、第2回「2008 SGS FESTIVAL」を開催。初めて外部から来場者を迎えた。屋外には日本、中国、アメリカ、メキシコなどクラス別出店による各国料理の屋台が並び、食堂では本格ピザも提供。アゴラではエタノール・パッチテストでアルコール体質診断を実施した。



SGS FESTIVAL グローバルスタディーズ学部 SHONAN

Seminar ゼミナール活動報告

英語教育と異文化コミュニケーション
利尻島の観光案内パンフと
HPを英訳

経営情報学部 准教授 佐野 裕美子



日本最北限の人口 2600 人の小さな島「利尻島」。平成 19 年度には約 20 万人の観光客が訪れた。ハイシーズンは花々が咲き乱れる 6～7 月だ。650 種もの植物が息する豊かな自然と美しい景観、豊富な海の幸。今春に家族旅行で利尻島を訪れた佐野裕美子先生は、その素晴らしさに感動した。年間 600 人近くの外国人観光客がいる。ところが英文のパンフレットもないし、英語の看板もほとんど見当たらない。島内で出会った外国人観光客は、情報を得ることができなくて困っていた。このときの体験がきっかけとなり、佐野先生は「利尻島観光パンフレットとホームページ (HP) の英訳」で情報発信に協力するプロジェクトを今年 6 月に立ち上げた。

佐野先生が指導するホームゼミでは、2 年生時から 4 年生時までの 3 年間をかけてビジネスでも通用する英語力を身につけていく。リスニング、スピーキング、文法、英語によるディスカッションなど実践でも使えるように学習する。目標は TOEIC800 点だ。2 年生で英語力をつけ、3 年生では「英語を使ってプロジェクト」通称「バイリンガルプロジェクト」を実施する。大学内のアナウンスを英語で行ったり、小学校に英語を教えに行ったり、英文の News Letter を作ったり。利尻島プロジェクトは、ゼミ

生 12 名が 4 年生となった今年 6 月末から動き始めた。外国人向けの観光パンフレットにはどんなことが掲載されているのか、どのような表記をするのか。情報を得るためにゼミ生たちはアメリカ国立公園のパンフレットを和訳した。その後、手分けして利尻島観光パンフレットと HP の英訳に取り掛かり、8 月初めに完成させた。ゼミ生が作成した英語の原稿は来春、利尻町観光協会によって英語版のパンフレットと HP として公開される予定だ。

経営情報学部 4 年でプロジェクトリーダーの山原大志君は、「日本語の微妙なニュアンスを英訳することが難しく苦戦した。日本語そのまま英訳するわけにはいかない。よく使う『モデルプラン』という英語はないし、『第 1 日目』は英訳すると『Day 1』。今までの積み重ねが役に立ったと思う。ゼミをまとめるのはたいへんだったが、皆で完成させた達成感があります」と話した。9 月上旬、3 泊 4 日で 6 名のゼミ生たちは利尻島を訪れ、島の魅力を実感した。宿泊したホテルの方が車で観光案内してくれるなどとても親切にもてなしてくれたので、お礼にホテルの案内手引書を英訳した。学生生活も残り少なくなった今、山原君たちは利尻町立博物館のパンフレットの英訳も始めた。

学生たちによる日英対訳の一例

モデルプラン 利尻島の良いところを選びすぐって作りました。利尻の魅力を感じる存分楽しめるこのコースがあなたの旅行を最高にすることをお約束します。旅行日数、コンセプトに合わせて参考にしてください。すべてのプランは東京を起点としています。	Suggested Itineraries For visitors on the run, we have devised self-guided tours. With these ready-made itineraries, you can have a complete, unforgettable trip, even though time is short. All four itineraries include Rishiri's famous sightseeing spots. Please adjust plans according to your time and interests. Note: All suggested trips here begin in Tokyo.
Q. 島はどこに位置しているか？	Q. Where is Rishiri island located?
A. 利尻島は北海道の最北端・稚内から西におよそ 53km 離れたところにあります。ちなみに、だいたいアメリカ・ミネアポリス、フランス・ボルドー、カナダ・オタワ、イタリア・トリノと同じ緯度になります。	A. Rishiri island is about 53 km (33 miles) away from Wakkanai, the northernmost tip of Hokkaido. It is located on the same latitude as Minneapolis (U.S.), Bordeaux (France), Ottawa (Canada) and Torino (Italy).
Q. 島の交通手段は？	Q. How can I get around the park?
A. 定期観光バス、路線バス、観光ハイヤー、レンタカーなどあります。詳細は「アクセス」で。	A. Please use sightseeing tour buses, public bus service, taxis or rental cars. See more in "Directions."
Q. 島の特産品は？	Q. What are the special local products in Rishiri island?
A. 昆布、ウニ、お魚、焼酎、醤油など島特有の産物があります。	A. Famous special local products are seaweed, sea urchin, fish, distilled spirit, soy source, and so on.
Q. 島の花は持ち帰り可能か？また島の動物にえさをあげることができますか？	Q. Is it OK to take some wild flowers home or feed wild animals?
A. 島内の動植物は法によって保護されています。花をつんだり、動物にえさをあげないでください。商用に育てられた植物は、店舗にて購入できます。	A. All animals, plants and geological resources are protected by law. Please do not disturb or feed any wild animal. You can buy some plants grown commercially at shops, please consider purchasing if you are interested.

Project Seminar プロジェクトゼミナール報告

横浜 FC サッカービジネスプロジェクトゼミ

学生たちの企画がかたちになった！

経営情報学部 客員准教授 江頭 満正

10月25日(土) ニッパツ三ツ沢球技場で行われた横浜 FC 対愛媛 FC の試合(14時キックオフ)で、多摩大学「横浜 FC サッカービジネスプロジェクトゼミ」の学生15名による企画イベント「RESPECT FOR SOCCER」が実施された。

「相手チーム、相手サポーター、サポーター同士、審判、スタッフなどに敬意を払い、一緒に素晴らしい試合を作り上げることを」を主眼とし、①サポーター宣言、②BLUE CHEER GOODS プレゼント、③Face Seal a Match ④ゴールと叫べ、の4つのイベントが横浜 FC の協力を得て実現した。試合開始前には各チーム代表の小学生2名ずつによりサポーター宣言が行われた。観戦者が敵味方一緒に宣誓する試みは日本で初めての事例。アイデアを提案した学生は、「子どもが元気よく声を出してくれてよかった」と一安心。また来場者800名には青い応援グッズ(軍手・ハチマキ・風船)やフェイスシールをプレゼントし、応援グッズを身につけることによる心理的变化を研究するためアンケートを実施した。当日は三浦知良選手による今季初ゴールも決まり、場内ビジョンには「ゴール!!!」と叫ぶサポーター達の姿が次々に映し出されスタンドが沸いた。ゼミでは春学期から企画立案、横浜 FC へのプレゼンテーションを行い、秋学期には実施に向けて学生主導で進化した。「企画が形になり、とても勉強になった」と学生は緊張と喜びの表情で話した。

会場で学生達の様子を見守っていた江頭先生は、「経験することが大切。若い頃の失敗は社会に出てから役に立つ。スポーツビジネスはP(plan)D(do)C(check)A(action)サイクル。計画、実行、反省し役立てていく」と話した。終了後、ゼミではアンケートを集計して結果を評価、報告書を作成する。横浜 FC 企画部の藤原兼蔵さんは、「多摩大生は前向きで動く反応が速い。資料作りなどでもパソコンを使った実践的能力が高い。企画の段階からチームでも楽しみにしていた。学生の視点は自分達の思いつかないこともありおもしろい」と評価した。



知的プロフェッショナルゼミ

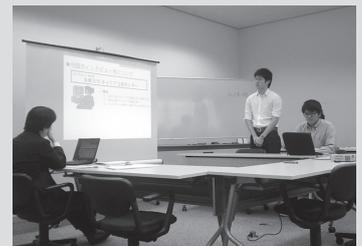
産学連携で、「知的プロ」の基礎能力を学ぶ

トランスコスモス株式会社

知的プロフェッショナルとしての能力とは。考える力(論理的思考、アイデア発想)、コミュニケーション力(自己認識、グローバルリスニング)、ドキュメンテーション力、プレゼンテーション力など社会人として活躍するのに必要な実践的基礎能力のことだ。コールセンターや、テレマーケティング大手のトランスコスモス株式会社と多摩大学は、今年4月から産学連携で「知的プロフェッショナルゼミナール」を開講した。

ゼミのプログラムは、同社が社員向けに実践している教育内容をベースに学生向けに改良。春学期、秋学期を通して知的プロとしての能力の必要性認識と理解、習得を目的とする。秋学期には、学生が2人1組のチームでコンサルタントとして顧客企業からの依頼された製品を納めるという課題に取り組んだ。多摩大の関係者などからニーズをヒアリングして市場調査を実施し、報告書を作成するマーケティングの一連の流れを体験した。授業は隔週2コマ3時間、講師はトランスコスモス社の社員が務め、13名の学生が受講した。

コーディネーターの酒井麻衣子 准教授は、「受け身の姿勢で授業を受けることに慣れてきた学生達に社会人の先輩として、自立した生き方や姿勢を伝えたい。このゼミを通して社会の厳しさを体験できれば上出来です」と期待。ゼミ生の一人、経営情報学部3年の清水大志君は、「知プロゼミでは仕事のスケジュール管理の厳しさを実感した。納期を守るシビアな面やチームの協調性などいい体験をしたし、考えるためのツールを教えてもらった。トランスコスモス社の方が強調していた『気づきを大切にすること』という言葉は大学のキャッチと繋がる。自分の気づき、相手から教えられると知る気づき、互いに気づいたことを教え合えばもっと成長すると思う」と話した。清水君はプレゼンテーションで、担当者から利益やコスト面について厳しく指摘された。しかし評価は高かった。ゼミは終了したが、まだ社会の厳しさを実感できないでいる。やがて社会人となったとき、知プロゼミの成果を試す機会が訪れるだろう。



University for a walk around

多摩キャンパス

キャンパスでは学生たちが、喜び、傷つきそれぞれの物語をつくりだしています。

地域と大学

003

物語の風景は多摩キャンパス。



少女漫画「天使なんかじゃない」は、聖学園高校で繰り広げられる切なくピュアな学園ラブストーリーだ。作者は「NANA」でも著名な漫画家矢沢あいさん。多摩大学附属聖ヶ丘高校がモデルとなり、多摩大の校舎も各所に描かれている。特集にあたり集英社クッキー編集部のご協力により、矢沢さんから当時のエピソードを語るメッセージをいただくことができた。(以下全文)

「天使なんかじゃない」の連載開始前、新設高校を舞台にした学園物語を描く事が決まり、当時新設だった多摩大学の附属高校に取材の許可を頂く事が出来ました。漫画の中の主要な登場人物達が、生徒会役員という設定だったので、校内の写真撮影だけでなく、当時の生徒会役員のみなさんにも、お話を伺う事が出来ました。生徒会長は絵に描いたような聡明で美人な女の子で、他の役員のみなさんもそれぞれ個性的で生き生きとしていて、漫画より現実の方がおもしろそうだな、と思った事を覚えています。その時に聞いた行事への取り組み等の話が、漫画の中で活かされている部分もあります。こちらの勝手なお願いに快く応じて下さり、本当に感謝しています。ありがとうございました。 矢沢あい



「ごっだつてあたしには」

パラダイスだよ

「天使なんかじゃない」矢沢あい (集英社) より



いちばん大切な女の子だつて

思い始めてくれるの?



© 矢沢あい / 集英社

Information

多摩大学のキャンパスは様々な映画やCMの撮影に使われています。次号では多摩大学がどのようにメディアに使われているかを紹介いたします。



Rapport

Number.065

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 プリント永山
発行日 2008年12月26日

<http://www.tama.ac.jp/>



Contents

News

寺島実郎氏が第五代学長に就任 P.02

学生サービス認識度調査結果 P.03

特集

多摩キャンパス周辺案内 P.04

Student Life in Tama city

ゼミナール情報 P.06

「多摩の地域ビジネス」秋学期一松本ゼミ
関東10ゼミ討論会で最優秀賞受賞ー豊田ゼミ

地域と大学 多摩市のロケ地案内 P.08

映像で再発見する街の魅力

News

寺島実郎氏が 多摩大学第五代学長に就任

著作活動や報道番組のコメンテーターとしても活躍中の寺島実郎氏が、2009年4月より多摩大学学長に就任することが決まりました。日本総研会長や三井物産戦略研究所所長も務め国内外の豊富なネットワークと経験を活かし、開学20周年を迎える多摩大学はさらに発展していきます。また、2009年度も寺島実郎監修リレー講座を開講します。「世界潮流と日本の進路」を基軸に、国際情勢や経済、国内行政等の各分野における精鋭の専門家を多摩大学に招き、リレー講座形式による通年の体系的なプログラムを開催します。



第五代学長に就任する寺島実郎氏

多摩キャンパス学食リニューアル より過ごしやすいキャンパスライフへ

2009年4月に多摩大学学生食堂がリニューアルされます。今回のリニューアルでは学生との意見交換会で生の意見を取り入れました。その結果、施設のリニューアルだけではなく開放時間の延長やメニューへのリクエストに対しても反映させることになりました。その他、大人数でもゆったりと座れ、食事だけでなく学生同士のディスカッションにも使える大型の机の配置、ノートPC用の電源の確保、多摩丘陵が一望できるウッドベラステラスへの変更、分煙の推進など全く新しい学食に生まれ変わります。



新しくリニューアルする学食（イメージ）

スキー・スノーボード実習行われる

2009年2月16日（月）～20日（金）の4泊5日でスキー・スノーボード実習（長野県菅高原スキー場）が行われました。この実習ではスポーツIIIの単位が修得できます。今年は1年生から3年生まで29名の参加があり、インストラクターによる実技指導を受けました。スポーツ実習の授業にはスキー・スノーボードの他にテニス、バスケットボール、ゴルフなどのスポーツ実技が開講されています。『生涯にわたってスポーツ文化とかかわり合うことで、人生の価値を高めていくために必要な知識やスキルを学ぶこと』を目的として、多くの学生が履修しています。



スキー実習の様子

後援会セミナー開催 就職問題について大いに盛り上がる

多摩大学経営情報学部後援会セミナーが2009年2月13日（金）に多摩大学品川サテライトキャンパス（品川インターシティA棟27階）で行われ、97名の後援会会員が出席しました。浜田正幸准教授による講演「保護者の就職活動」が行われ、多摩大学の就職支援について学生と大学と保護者の三位一体の就職活動が必要であると熱く語りました。昨今の世界的な不況も影響し熱心な質問もありました。また、講演会終了後の懇親会にも多くの会員、教職員が参加し、盛況のうちに終了しました。



大いに盛り上がったセミナーの様子

多摩大学菅野光公ゼミ 三鷹市小学校で食育授業行う

多摩大学菅野光公ゼミ生の二宮理沙さん（経営情報学部4年）と齋藤竜也さん（同3年）が2月19日（木）に三鷹市立第三小学校の6年生100名向けに、食育・世界の子供・飢餓等をテーマにした授業を行いました。菅野ゼミでは、2008年度秋学期に世界の「環境」「食糧事情」「飢餓」「南北格差」を勉強しました。これらの知識は「子供達にこそ伝える必要がある」という学生達の発案で、小学校での授業が企画されました。この様子は2月20日付の読売新聞に取り上げられるなど多方面から注目を集めました。



三鷹市立第三小学校の授業の様子

日経 STOCK リーグに 多摩大学山内ゼミが最終審査に！

多摩大学山内ゼミが日本経済新聞社主催の第9回「日経 STOCK リーグ」のレポート審査委員会二次審査により、最終審査会に残り、ノミネートレポートのリストに選ばれました。レポートタイトルは「～企業の主人公は知的財産だ！～Accounting Boy」です。日経 STOCK リーグは、中学生・高校生・大学生を対象にした「自主テーマによるポートフォリオ学習」および「レポートコンテスト」です。インターネットを活用した「バーチャル株式の体験学習」や各自の投資テーマに沿ったポートフォリオづくりなどを通じて、生きた経済にふれ、自ら考え、学んでいく力を身につけていきます。

多摩大学多摩キャンパス学生サービス認識度調査結果 (2008 年度抜粋)

2008 年 12 月～ 2009 年 1 月にかけて多摩大学多摩キャンパスの学生対象に「学生サービス認識度調査」を行いました。この調査は多摩大学の学生サービス向上のために現状のサービスの認識、満足度について調査したものです。全調査結果は多摩大学事務局ホームページで公開しています。

全体回答数 749 名 (男性 598 名、女性 151 名) (1 年 138 名、2 年 133 名、3 年 218 名、4 年 260 名)

学生生活支援センター

◎ 満足、やや満足の理由

- ・丁寧だから ・親切だから
- ・親身になって相談 ・質問に対応してくれた
- ・迅速に対応してくれた ・スポーツ用品を大切に使える
- ・情報を的確に教えてくれる ・雲雀祭でお世話になった
- ・窓口以外で外で会っても話をかけてくれるから

◎ 不満、やや不満の理由

- ・対応が雑 ・態度が悪い
- ・16:30 までしか開いていないのでもう少し長くして欲しい
- ・どのような支援をしているのかが明確ではない
- ・相手生徒によって態度が違う
- ・問題があった時の対応が遅い ・対応が冷たい

有効回答数 719

キャリア支援センター

◎ 満足、やや満足の理由

- ・非常に親切に相談に乗ってくれたから
- ・自分の話を熱心に聞いてくれる存在はとてもありがたい
- ・キャリアナビシステムが特に役立ちそうです
- ・名前を覚えてくれて嬉しいです
- ・行事の申込みの際、とてもスムーズだった

◎ 不満、やや不満の理由

- ・全体的に活動が遅い ・行きにくい ・入りづらい

◎ その他要望

- ・場所の改善 ・先輩によるエントリーシート添削
- ・早い時期からの個別面談や模擬面接の開催

有効回答数 520
※3 年生以上対象

MIC LSS (図書館)

◎ 満足、やや満足の理由

- ・読みたい本がある、蔵書が充実している
- ・きれいだった ・静かで集中できる
- ・資料探しの時にお世話になりました
- ・パソコンが利用できる、コンセントがあって便利
- ・貸出期間が長い ・AV 資料や DVD が利用できる

◎ 不満、やや不満の理由

- ・蔵書の少なさ、学術系が少ない
- ・印刷枚数が決まっている
- ・テスト期間の人の多さ ・DVD を増やして欲しい
- ・個別スペースの配置が変わって使いにくい
- ・サービスをもっと告知した方がよい ・職員の方が冷たい

有効回答数 697

MIC MSS

◎ 満足、やや満足の理由

- ・優しい、親身、丁寧 ・充実したサービスだから
- ・家でも確認できるから ・トラブル対応が早い
- ・Gmail の容量が増えた、卒業後も使えるようになった
- ・修理の対応が早い
- ・学内で自由にネットにつながるの便利

◎ 不満、やや不満の理由

- ・ほとんどフォーマットされてしまう ・バッテリーの無料交換

◎ その他要望

- ・貸与 P C の販売、配布 ・プリンタを増やして欲しい
- ・T-NEXT の充実 ・Word, Excel の使い方説明など

有効回答数 679

全調査結果は多摩大学事務局ホームページをご覧ください。 <http://jimmu.tama.ac.jp/>

多摩大学卒業生のためのキャリアサポート室開設

多摩大学は卒業生のためのキャリアサポート室を 2009 年 1 月に東京日比谷に開設しました。この相談室は多摩大学 20 周年記念事業の一環で 4,600 名を越す卒業生が転職や就職を考えた際に直面する様々な問題や悩みを相談できるように用意されたものです。総合人材サービスを展開するパナソニックグループの株式会社関東雇用創出機構と提携します。これにより多摩大学の卒業生は事前に予約することにより転職を考えた際のキャリアカウンセリングや応募企業に向けての効果的な履歴書・自己紹介書のアドバイス、面接の練習、企業情報の分析、最新の求人情報の確認などの就職

支援を無料で受けることができます。場所も東京メトロ日比谷駅 (A13 番出口) から徒歩 3 分と都心での就職活動に大変便利な場所にあります。関東雇用創出機構のベテランキャリアカウンセラーによる相談内容や就職状況の進捗情報などは多摩大学キャリア支援センターに随時報告されますので多摩大学のサポートも受けることができます。

株式会社関東雇用創出機構 多摩大学キャリアサポート室
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-1-7 大和生命ビル 9 階
TEL : 03-5157-8290 FAX : 03-5157-8299
Email : careersoudan@kantou-kikou.co.jp

Student Life in Tama city



(C) 2009 SANRIO CO.,LTD.

サンリオピューロランド



TEL 042-339-1111

多摩センター駅から徒歩5分の屋内型アミューズメントパーク。豪華なサンリオハートフルパレード「Believe」に夢心地、華麗なアクロバットにドキドキ。

大人の女性向けにデザインされたキュートなキティちゃんグッズも種類が豊富！

◇土日祝日・学校休日の営業時間

10:00～18:00

◇お得な学生割引券はこちらへアクセス↓

http://www.puroland.co.jp/information/discount_pass_gakuwari.html

ワーナー・マイカル・シネマズ
多摩センター

TEL 042-355-8700

8スクリーン、1806席のシネマコンプレックス。観たい映画や上映時間はインターネットで確認。学生料金は1,500円。割引料金で映画を観ればもっと安くなる！

毎週月曜は「レディスティ」女性は1,000円
毎週水曜は「ふたりディ」（2009年10月まで）2人で2,000円（同じ映画）

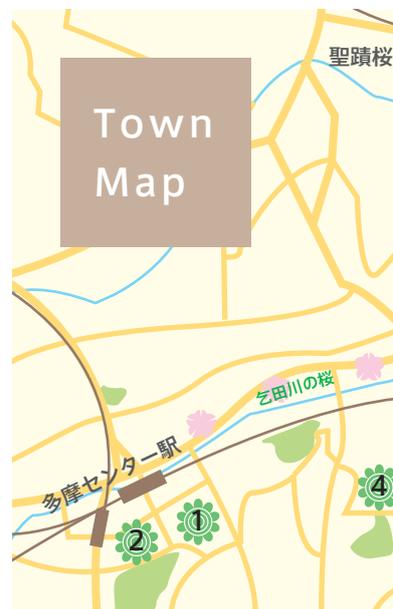
毎月1日は「ファーストディ」1,000円

レイトショー（20時以降の上映作品）

1,200円



乞田川の桜



ベルブ永山

1階は郵便局など、2階は図書館、3階には公民館がある複合施設。



Fracasso フラカッソ



TEL 042-371-1088

カジュアルなイタリアンレストラン。パスタ・ピザ・スパゲティ・ドリア・グラタン・ハンバーグなど種類が豊富でお手頃価格。店内は広く、多摩大生はサークルの集まりなどでよく利用。

日替わりランチは580円～ 食事はプラス200円でドリンクバーが付く。



フットサルクラブ NAS 聖蹟桜ヶ丘



TEL 042-338-1433

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター A 館 8F 屋上にあるフットサル施設。駅に近く、地面のコンディションを気にせずスポーツを楽しめる。人工芝 2 面でナイター照明完備、シャワー付き更衣室有り。学生なら 3 名学生証提示で 1 時間 3,150 円 (平日 10 時～15 時限定)。電話で予約。ボール 2 個、ゼッケン 5 枚無料貸し出し。一人で試合に参加したいなら、毎週水曜日開催のコサルがいいかも。

Town Guide

多摩市

.....

多摩キャンパス所在地の街をご案内します

多摩大行きバスが発着する永山駅と聖蹟桜ヶ丘駅、さらに多摩センター駅の施設やお店、桜の名所をご案内。

都立桜ヶ丘公園

四季を通じて自然が豊かな公園。



ヴィータコミュニエ

1F から 6F はショッピングセンター、7F から 8F が関戸公民館などの多摩市の施設。



ブックセンターいとう 桜ヶ丘店

TEL 042-376-7788

朝 10 時から夜 12 時まで営業の古書店。CD、DVD、ゲームソフトの中古も扱う。1F はゲームソフト、DVD、CD、雑誌、駄菓子や雑貨など。2F はコミック、文庫本など、3F は実用書、スポーツ・インテリア・音楽などの専門雑誌、参考書、大学の教科書など。15 店舗の中でも店内に並ぶ本の種類の多さは上位級。出張買い取り OK。貯まったポイントで買い物できるポイントカードがご得だ。



多摩大周辺のお店

永山さくら通り



蔦屋書店 多摩永山店

TEL 042-310-0567

書籍・コミック・文具・CD・DVD の販売、レンタル CD・DVD のお店。永山駅→蔦屋書店→ブックオフ→永山駅を循環する無料のシャトルバスが運行。携帯やパソコンで TSUTAYA online メンバーに登録すると、キャンペーン中はレンタル半額で利用できる。

Rapport Project

Project Seminar プロジェクトゼミナール報告

1年を通じて地域づくりのプランを考察するプロジェクトゼミ「多摩の地域ビジネス」（コーディネーター：松本祐一准教授）。秋学期は、毎週2時限目に「食」と地域ビジネス（講師 中庭光彦先生）、3時限目には「商店街」と地域ビジネス（講師 片桐徹也先生）の講義が行われた。中庭先生の授業では、地域における「食」をテーマに各自

が調査し、進捗の発表と討議を繰り返しながらレポートを完成させた。片桐先生の授業では、地域再生手法について解説し、春学期の「七夕フェスタ」イベント実施結果も踏まえた地域のWOT分析を行い、大学や学生が関わる地域再生戦略について討議した。1月7日に外部の方を招いて合同発表を行い、報告内容は冊子にまとめられた。

「食」と地域ビジネス

講師 中庭 光彦

フードビジネスとソーシャルマーケティング②

■ 10/1 秋学期の授業方法について説明。課題は「多摩ニュータウンの食」に関するものとして、多摩市・稲城市などから数例を学生に提示。各自でテーマを選び、あるいは見つけて調査し文章化してプレゼンする。先生はケーススタディとして「緑茶に見る流通構造と地域産業」について講義した。

■ 10/8 ゼミ生6名のテーマが決定。「言葉の定義を知ろう。短期調査で発表するのでテーマを絞るために言葉を正しく、狭く、確実に使うことが必要。選んだテーマの予測・予想として仮説を持つことの大事さ、レポートを書くことと感想文を書くことの違いを認識する必要がある。ネット情報ばかりではなく図書館を利用してほしい」など先生が指摘。各人のテーマは目のつけどころが面白いと評価した。

■ 10/15 ゼミ生はそれぞれのテーマに基づいて調査。「緑茶に見る流通構造と地域産業」の調査の仕方や手法を参考として紹介。1次情報（人からの聞き取り）を調べることは大事だが、まずは2次情報（文献を見る）をきっちり調べていくと現状が分かり、どこまで調べればいいのか分かると話した。

■ 10/22 3学生による調査経緯の発表と討議。

■ 10/29 前回に引き続き、ゼミ生たちはそれぞれのテーマについて調査した結果をまとめ発表。発表後は意見交換を行い、先生は感想とアドバイスを述べた。

■ 11/5 先生の論文を参考に、秋学期のテーマを論文・レポートとして書き上げていく方法を講義した。

■ 11/12 『米流通の自由化はどのように評価できるのか』。米流通の自由化にいたる歴史の理解とともに、ゼミ生の論文の書き方に触れてアドバイスした。

■ 11/19 レポートを1人10分で発表し、討議。

■ 11/26 前回に続き、進捗状況が発表された。

■ 12/3 パワーポイントを使って発表と討議。松本先生からもゼミ生にアドバイスが与えられた。

■ 12/10 パワーポイントを使って中間発表。

■ 12/17 1人5分間で発表のリハーサルを行った。

■ 1/7 「学習成果発表会」は13時から14時30分まで、多摩大学102教室にて多摩市役所経済観光課渡邊哲也氏を迎えて、中庭ゼミ、片桐ゼミ合同で行われた。中庭ゼミでは学生たちはパワーポイントを用いて研究テーマを発表した。

◇研究テーマ「米流通のこれまでと現状」「稲城 梨農家の現状と未来」「なぜ稲城の梨農家は高尾ぶどうを育てるのか」「多摩の名産物 原峰のいずみについて」「多摩市の学校給食、献立の成立過程」「銚子における福祉亭モデルの応用可能性」



「商店街」と地域ビジネス

講師 片桐 徹也

ニュータウン商店街のビジネス開発②

■ 10/1 最先端の地域再生という仕事やPPP (public private partnership) について、どのように役立つのか、それに関わるようになった経緯など先生自らの背景を紹介。秋学期は講義とともに各自が決めたテーマで「地域ビジネスの開発」を学ぶ。

■ 10/8 12/6に諏訪・永山近隣センターを結ぶふれあい橋で行う永山商店街主催の夢灯りプロジェクトについて討議。ゼミ生はボランティアでパイプ役、広報宣伝、準備係として参加していくことを決定。

■ 10/15 地域開発や再生を研究するときにPPP=公民連携は、欠かせない手法となっている。その概論と事例について先生は講義した。

■ 10/22 PPPケーススタディ（家守、国内海外事情）、PPPの現状、起きていることを皆さんにシャワーのように講義していくと先生は宣言。

■ 10/29 公共下水道事業を例に、資本金のない役所がどのように事業計画を進めていくのかを解説。

■ 11/5 ゲスト講師に寺井素子氏（前銚子市地域再生マネージャー、現千代田図書館勤務）を迎えて、PPP体験談と海外の事例について語っていただいた。

■ 11/12 諏訪・永山地域の活性化方策可視化のため、SWOT (Strength: 強み、Weakness: 弱み、Opportunities: 機会《外部からの機会》、Threats: 脅威《外部環境》) 分析に着手。多くの考えられる項目の中から強み一先かす、弱み一克服、機会一利用、脅威一取り除くことによって再生への提案を見つける。

■ 11/19 諏訪・永山地区活性化のためにメリットとデメリットを洗い出す作業に入った。

■ 11/26 諏訪・永山地区の競争戦略を提案するためにSWOT分析の作業を続ける。

■ 12/3 レポート作成のために意見交換とまとめ。

■ 12/6 諏訪・永山商店街にて「夢灯り」イベント。

■ 12/10 未活用、低利用資源を掘り起こし、地域再生の起爆剤とするにはどうすればよいか、発表に向けて先生とゼミ生で意見交換。

■ 12/17 パネルに張るA3用紙8枚の発表内容の確認を先生とゼミ生が打合せ。不足箇所、変更部分、改めて要旨の確認などを行った。地域を限定してどんな目的で現地調査やイベント、アンケートを行ったかを土台に、自分達の思いや住民の思い、経営学的分析・SWOTをなぜしたのか、などを人間味あふれる報告書として作り上げてほしいと先生は話した。

■ 1/7 午前中はリハーサル。午後から「学習成果発表会」、パネルセッション(パネル展示)の形式で、スクリーンに内容を表示して発表した。

Seminar ゼミナール活動報告

関東 10 ゼミ討論会で最優秀賞を受賞
「マーケティングは面白い!」
豊田 裕貴 ゼミ



豊田ゼミではマーケティング、特に消費者行動とブランドマーケティングを中心に研究を行う。春と夏には「辛くて楽しい」合宿があり、3年次は「関東 10 ゼミ討論会」参加を目標に1年かけて研究に取り組む。

「関東 10 ゼミ討論会」(後援:日本マーケティング協会)は、マーケティングを専攻するゼミの大学生が研究の成果を発表し討論する場で、毎年開催される。2008年度の討論会には、多摩大学豊田ゼミ、学習院大学、慶應義塾大学、首都大学東京、明治学院大学、立教大学、早稲田大学など11大学14ゼミが参加した。今年度の討論会の統一テーマは「学生マーケティングの挑戦～Building Bridges Knowledge and Practice in Marketing～」だ。

5月10日に開会し、6月27日に経過報告がWEBにアップ、9月27日中間発表、11月8日プレ発表、12月6日に早稲田大学で討論会が実施された。参加グループは4P(Product・Price・Place・Promotion)のカテゴリーごとに発表を行い、実務家や大学院生が評価。最終的に選ばれた優秀グループ同士が参加者全員の前でプレゼンテーションし、最優秀賞は参加学生たちの投票により決定する。多摩大豊田ゼミは、Product「インターネット・ショッピングにおける最後の一押し」でカテゴリー優秀賞、さらにPlace「陳列空きスペースにおける顧客の心理的影響の研究」で最優秀賞を獲得した。優勝したチームのメンバーは、豊田ゼミ経営情報学部3年生の飯岡慶子さん、勝田祐梨子さん、上西友恵さん、平田勇樹君の4人。当日の発表は「うまくいった」と声を揃える。研究のテーマは「消費者の心理をどうやってつかむか」で、コンビニエンスストアを調査の場所とした。論文作成に際して、マーケティング関連の書籍を何十冊も読破し、PCで論文を調べ、コンビニでは店長へのインタビューや市場調査を行った。また「買い物に行き、目的の商

品がないときに買うもの」などを質問内容とする200枚の学生アンケートを実施した。4人はたのしみながらマーケティングを研究できたという。チームを組むことで、自分にはない考え方に触れることができたし、発想が広がった。実は飯岡さんらチームは、夏の段階で研究がかなり遅れていた。先生に「あせて」と言われながらものんびりしていた。ようやく論文がまとまったのが、締め切り日の1週間前。討論会の前日に一気に集中して練習できたことが功を奏したという。プレゼンテーションでは、飯岡さんが発表者、上西さんがパワーポイント操作、勝田さんと平田君が質問対応をそれぞれ担当した。プレゼンテーションがあまり得意ではなかった飯岡さんは、朝起きて夜寝るまで時間があれば発表の練習をした。「優勝したことはすごくうれしかった。でも賞を取ることができなかったチームも羨しかった。泣けるほど熱くなれたんだなと思ったから。優勝できたのはゼミ生全員でやってきたから。豊田ゼミは2つの気持ちを手に入れることができたんだと思う」。上西さんは「就職活動をしていて自分に何ができるかを考えた時、10ゼミだと思った」。勝田さんは「多摩大に入ってよかったし、優勝したことは自分にとって大きな自信になった」。平田君は「豊田ゼミで学生生活が一変した。社会に出たとき必ず活躍します」と胸を張った。豊田先生については「毎日のように学生達に付き合い、気を配ってくれる」「話やすく、親しみやすい」「差し入れしてくれるなど面倒見がよくて、お父さんや友達のように。そして感謝している。だから優勝で豊田先生に恩返しできたことが、何よりもうれしかったそうだ。

3月16日には日本マーケティング協会で多くの企業を前にプレゼンテーションを行った。就職活動、卒業論文の作成、ゼミ生たちは可能性を信じて学生生活最後の春を迎えた。



University for a walk around

多摩キャンパス

多摩市では、公園や学校が映画やドラマのロケ地として採用されました。

地域と大学

004

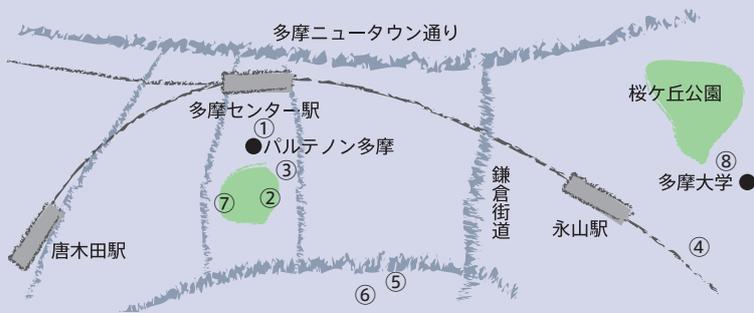
映像で再発見する街の魅力。

「この場所、知っている」。テレビや映画で見覚えのある風景を見つけ、秘かに喜んだことはないだろうか。ドラマや映画、CMなどのロケ地として、多摩市もたびたび登場する。例えば日本TV『ごくせん』『ヤスコとケンジ』、マクドナルドのCMは多摩中央公園、フジTV『花ざかりの君たちへSP』は陸上競技場、NHK総合『新マチベン』は旧西落合小学校、TBS『ルーキーズ』では『恵泉女学園大学(旧南野高校)』のグラウンドなどがロケ地として使われている。多摩大学のスポーツアリーナでも映画『デスノート』の撮影が行われた。多摩ニュータウンは都心から近く、公園が多い、景観が美しいなどロケ地に適した要素が多いようだ。

ロケーション撮影を支援する非営利公的機関であるフィルム・コミッション(FC)。地方自治体の間でFC設立の動きは広まりつつある。地方では撮影隊が支払う「直接的経済効果」や、映画・ドラマを通じて観光客が増加することで地域が活性化する「間接的経済効果」が期待できるからだ。FCはロケ場所に関する情報、宿泊、食事、機材、許可申請についてなど、撮影する際に必要な情報の提供を行うことで撮影を支援する。

多摩市でも2006年4月にロケーションサービス事業窓口を設置し、昨年4月から多摩市撮影支援事業として正式にスタートした。撮影場所として提供するのは、バルテノン多摩や陸上競技場、総合体育館、公園、学校跡地などの公共施設だ。2006年度は20件、2007年度は48件、2008年度(2009年1月31日まで)は70件の提供を実施した。事業を推進する経済観光課商工観光担当の鈴木誠さんは、「撮影場所を提供するだけではなく、街の魅力を市民はもちろん多くの人に知ってもらうことが目的です。クレジットに多摩市の文字が出ることによる街のセールス効果も期待しています」と話す。

今年5月には、FCとしてロケを様々な面から支援する非営利組織「たまロケーションサービス」が動き始める。撮影の立会いやエキストラなどのボランティアを募集。映像制作に関心のある学生は経済観光課まで問い合わせを。



①バルテノン大通り
映画「デトロイト・メタルシティ」「ハンサムスーツ」などを撮影。

②多摩中央公園
③多摩市立グリーンライブセンター
木村拓也主演のドラマ「眠れる森」を撮影。

④陸上競技場
⑤恵泉女学園大学(旧南野高校)

⑥恵泉女学園大学
ドラマ「14歳の母」を撮影。

⑦旧落合中学校
⑧多摩大スポーツアリーナ

Information

平成21年度入学式は、経営情報学部、グローバルスタディーズ学部、大学院合同で、2009年4月4日(土)バルテノン多摩(上記写真①)で開催されます。



Rapport

Number.066

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 プリント永山
発行日 2009年3月27日

<http://www.tama.ac.jp/>

Contents

News

図書館に歴代学長の著作コーナー P.02

寺島実郎監修リレー講座 秋学期
現代世界解析講座 II P.03

特集 オープンキャンパス 2009 P.04
Open campus in Tama

プロジェクトゼミナール報告 P.06
多摩の地域ビジネス
松本ゼミ・中庭ゼミ・片桐ゼミ

地域と大学 多摩 よこやまの道 P.08
万葉集に詠われた多摩丘陵

News

経営情報学部図書館に歴代学長の
著作コーナーを設置

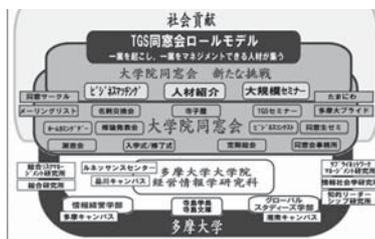
多摩大学創立 20 周年記念の展示事業の一環として、経営情報学部図書館入り口に歴代学長の著書を揃えたコーナーが設置されました。初代学長 野田一夫 著「大学を創る 多摩大学の 1000 日」「私の大学改革」、二代学長 中村秀一郎 著「新 中堅企業論」、三代学長 グレゴリー・クラーク 著「日本人ユニークさの源泉」、四代学長 中谷 巖 著「痛快! 経済学」などがあります。五代学長 寺島 実郎 著「二十世紀から何を学ぶか (上・下)」は、多摩大生にぜひ読んでもらいたい推薦図書です。貸し出しも可能で、多くの学生に利用されています



歴代学長の写真と著書を揃えた書架

大学院同窓会 HP をリニューアル
しました

8 月 12 日、大学院同窓会ホームページをリニューアルしました。多摩大学ホームページと同様、トップページには図解を用いています。また、同窓会ロールモデルのページを新設し、TGS 修了生の活躍を紹介しています。多摩大学 HP とも連携し、ビジネスマッチング、人材紹介、大規模セミナーの項目も設置、順次情報を発信していきます。名刺交換会、寺小屋、TGS セミナー、修論発表会、ビジネスコンテンツ、同窓会ゼミなどのコンテンツもあり、会員同士の交流がより一層、活発に行われるようになります。



多摩大学大学院同窓会ホームページの図解

テレビドラマの撮影に多摩大学湘
南キャンパスが協力！！

8 月 29 日 (土) 放送の日本テレビ 24 時間テレビドラマスペシャル『にいにのこを忘れないで』-脳腫瘍と闘った 8 年間の撮影が多摩大学湘南キャンパスで行われました。15 歳で脳腫瘍を発症し 8 年間の壮絶な闘病生活の末、23 歳の若さで他界した川上浩輔君の「生きた」足跡を錦戸 亮 (NEWS 関ジャニ∞) が主役でドラマ化。湘南キャンパスの大講義室や中庭等で、主人公が大学入試を受験する場面やその後の大学生活を楽しむシーンを撮影。グローバルスタディーズ学部の学生も多数エキストラとして参加しました。



湘南キャンパスで行われた撮影の様子

10 月 4 日 多摩大学マッチ DAY
開催！

10 月 4 日 (日) ニッパツ三ツ沢球技場にて、多摩大マッチ DAY「横浜 FC VS ザスパ草津」の試合が開催されました。多摩大学ではサッカービジネスプロジェクトの一環として横浜 FC と提携し、イベントの企画・運営を行っています。当日、多摩大生はイベントの運営などのサポーターとして参加しました。結果は残念ながら勝利には及びませんでしたが、昨年の同試合に比べると 1,000 人近い観客増となりました。さらに多摩大が招待した高校生の熱気も加わり、試合は盛り上がったものとなりました。



多摩大ブースに集まる横浜 FC サポーターたち

『望月ゼミ生誕および望月照彦教授
就任 20 周年記念祝賀会』開催

10 月 17 日 (土) 14 時から品川サテライトキャンパスにて、『望月ゼミ生誕および望月照彦教授就任 20 周年記念祝賀会』が開催されました。この会は OB・現役生・大学院生などからなる望月ゼミ OB 会「ホープムーンアカデミー」が、感謝の気持ちを込めて企画開催しました。第一部では、記念講演とこれまでの軌跡をたどる 20 周年記念誌の発行や OB 会の新体制についての発表があり、第二部の祝賀パーティでは各期のゼミ生代表者から望月教授ご夫妻にお祝いの言葉が贈られ、盛況裡に会が終了しました。



祝賀会で『出会い論』を講演する望月先生

多摩大学学園祭『雲雀祭』『SGSフェ
スティバル』が開催されます

10 月 31 日(土)・11 月 1 日(日)の 2 日間、多摩キャンパス学園祭『雲雀祭』が開催されます。今年のメインイベントは、映画『ROOKIES』にも出演した人気俳優、佐藤健のトークショー。フットサル大会や親子将棋教室などのイベントも予定されています。屋外にはゼミ出店による模擬店も並び、学生たちが腕を振るって料理を提供します。また湘南キャンパスでは 11 月 7 日(土)・8 日(日)に『SGS フェスティバル』を開催。世界各国の特色ある料理を集めた模擬店『世界屋台村』では、学生たちが英語を使って接客します。



昨年の雲雀祭。模擬店は大盛況で売り切れも

多摩大学公開講座
寺島実郎監修リレー講座
現代世界解析講座 II

— いま、世界の構造転換と日本のあり方を考える

「世界潮流と日本の進路」を基軸に、国際情勢や経済、国内行政等の各分野における精鋭の専門家を多摩大学に招き、リレー講座形式による通年の体系的なプログラムを開催している。世界各地の現況、海外から見た日本、また日本国内の諸問題を多面的に取り上げることで、問題意識の提起を目指し、内外一体の時代認識を深めることが主眼となる。また、現代世界の歴史的位置付けを再考し、地政学的知を深めることを通じ、現代が抱える課題を解析するプログラムを築く。昨年スタートした責任監修リレー講座の第二弾として、多摩キャンパス 001 教室にて春学期・秋学期で各 12 回の講義を開講する。多摩大学在学学生は履修科目として一般社会人と共に聴講し、合わせて計約 500 名が参加する。好評のうちに終了した春学期に続き、10 月から秋学期の講義が開始された。



監修 寺島実郎

多摩大学学長 (財)日本総合研究所 会長 (株)三井物産戦略研究所 会長

PROFILLE

1947 年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。米国勤務等を経て 99 年より三井物産戦略研究所所長。09 年 4 月より同会長。近著に『二十世紀から何を学ぶか』、『脳力のレッスン II』ほか。

リレー講座 講師予定表		
第 1 回	寺島実郎	多摩大学学長・(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所会長
第 2 回	金美德	多摩大学客員教授
第 3 回	沈才彬	多摩大学教授
第 4 回	酒井啓子	東京外国語大学大学院教授
第 5 回	寺島実郎	多摩大学学長・(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所会長
第 6 回	水野和夫	三菱 UFI 証券株式会社チーフエコノミスト
第 7 回	藤原 帰一	東京大学法学部政治学研究所教授
第 8 回	尾木直樹	教育評論家・法政大学キャリアデザイン学部教授
第 9 回	佐高 信	評論家
第 10 回	岩田 公雄	読売テレビ放送株式会社 報道局解説委員長
第 11 回	佐々木 毅	学習院大学法学部教授
第 12 回	寺島実郎	多摩大学学長・(財)日本総合研究所会長・(株)三井物産戦略研究所会長

2009 年前半という時代の総括 — 世界の構造転換とは何か？
今、朝鮮半島をどう考えるか
中国政治・経済・外交の最新動向
イラクを巡る国際政治情勢
時代を深く考えるということ — 『全体知』とは何か？
21 世紀は陸と海の戦い — 近代の終わりりと近代資本主義の行方
オバマは世界を変えるのか
変わるか？日本の教育—転換への処方箋—
現代日本の権力構造
世界の報道最前線に立って
日本政治の課題 — 組織・人材・政策—
2010 年への視座 — 日本創世への構想

多摩大学創立 20 周年記念コンサート

創立 20 周年記念事業の一環として、「多摩大学創立 20 周年記念コンサート」を開催します。コンサートには、本学の目指す「現代の志塾」を体現すべく、樋口裕一教授ゼミの学生が企画・運営に携わっています。パルテノン多摩を会場として、学生のみならず広く地域の方々にも鑑賞の機会を提供しています。音楽界をリードする若手音楽家による演奏にぜひご期待ください。

2009 年 11 月 10 日 (火) 開演 19 時 (開場 18 時)

会場：パルテノン多摩 大ホール

— 樋口裕一によるプレトーク — 18 時 30 分

佐藤 俊介 [ヴァイオリン] 菊池 洋子 [ピアノ]

入場料：全自由席 1,000 円

主催：多摩大学 後援：多摩大学経営情報学部同窓会

協力：KAJIMOTO

問い合わせ先：多摩大学創立 20 周年記念コンサート係

電話 042-337-7185

<プログラム>

クライスラー：愛の喜び

ヨハン・シュトラウス：トリッチ・トラッチ・ポルカ

モーツァルト：「ああ、お母さん聞いて」による 12 の変奏曲 八長調 K.265 (キラキラ星変奏曲) (ピアノ・ソロ)

ショパン：子犬のワルツ op.64-1

華麗なる大ワルツ op.18 (ピアノ・ソロ)

バガニーニ：「24 のカプリース」より (ヴァイオリン・ソロ)

ラヴェル：ツィガーヌ

フランク：ヴァイオリン・ソナタ 長調

※曲目変更の場合有り

Open campus in Tama

多摩大学多摩キャンパスでは経営情報学部オープンキャンパス2009が開催され、多くの高校生や保護者の方が参加した。オリエンテーションでは学部・学科やキャンパスライフを紹介、教室では模擬授業が行われ、高校生は大学の授業を体験した。学生スタッフが学内を案内するキャンパスツアーも実施。アゴラにはゼミ紹介パネルを展示し、大学生と高校生がフリートーク、個別相談コーナーでは入試担当の教職員が相談に応じた。創立20周年を迎えた今年には学内の各所にパネルや写真を展示し、大学の歴史を紹介した。

オープン キャンパス 2009



20TH ANNIVERSARY

今年、創立20周年を迎えた多摩大学。101教室前に記念パネルを展示。学内の廊下には多摩ニュータウン開発と大学の写真を掲示して、地域や大学の変遷と歴史を紹介。



高校生

高校生

ORIENTATION



学生スタッフがキャンパスを案内。高校生は自分のキャンパスライフを思い描く。



CAMPUS TOUR



101教室で行ったオリエンテーションでは、本日のプログラムやゼミナールを説明。大学生はキャンパスライフを映像で紹介した。

OPEN CAMPUS 2009



生は多摩センター駅前に集合



サンリオピューロランドで体験学習



スクールバスで多摩キャンパスへ



高校生は食堂で学食体験



とゼミ生でディスカッション



張り出された付箋の内容を分析



7月12日(日)のオープンキャンパスで、松本ゼミ「集客施設のマーケティング~サンリオピューロランドの問題解決イベントの企画・運営」の模擬授業が行われ、約90名の高校生が参加した。

事前予約をしていた高校生や保護者らは、午前中はゼミ生の案内でグループごとにサンリオピューロランドで体験学習。スクールバスで多摩キャンパスに移動し、午後からはゼミ生に交じって模擬授業に参加した。公開ゼミのテーマは「サンリオピューロランドの高校生イベントを考えよう」。グループごとに意見をまとめ、最終的に高校生向けイベントのアイデアを提案する。保護者も授業に参加し、活気に溢れた授業となった。

模 擬 授 業

Project Seminar プロジェクトゼミナール報告

多摩市における地域ビジネスの運営を体感するプロジェクトゼミナール「多摩の地域ビジネス」。春学期は3つのテーマについて、それぞれ全15回の授業が行われた。学生たちは現地に足を運ぶフィールドワークやヒアリング調査を実施。産学協同によるゼミ

には企業の社員の方が毎回参加し、プロのアドバイスをいただいた。研究テーマについてはグループディスカッションを重ね、中間発表も行われた。秋学期はテーマについての調査や研究を進展させ、発表あるいは実施し、報告を行うことでゼミの集約とする。

サンリオピューロランドの
課題解決イベントの企画・運営！

講師 松本 祐一

■4月21日 プロジェクトのキックオフミーティング。ゼミにはサンリオエンターテイメント社員の大江公一さんと原祐行さんが出席。多摩大からは女性職員（なでしこプロジェクト）も多数参加。①プロジェクトを達成するという気持ち②チームワークを大切に③楽しんでやる！頭の文字を取って合言葉は「ブ・チ・ラク」に決定。一年間みんなで守っていく約束となる。■4月28日 大江さんと原さんよりサンリオの経緯やピューロランドの世界観などの話を伺う。■5月12日 「多摩大の課題を見つける」ため多摩大でフィールドワーク。■5月19日 グループごとに「多摩大の課題と解決策」を発表。■5月24日 サンリオピューロランドでフィールドワーク。■5月26日 グループでフィールドワークの分析作業をし、結果を共有するために問題を構造化して説明できる資料を作成。■6月2日 サンリオピューロランドの課題を整理。■6月9日 サンリオピューロランドで行うイベント企画の参考とするため、他の集客施設が「人を集めるために行う活動」をテーマ別にグループ分けして研究。■6月16日 「ブチ楽」を実現するためのリーダーは富士道博君に決定。■6月23日 集客施設研究の研究内容を決め、グループごとに1分間で発表内容をPR。■6月30日 研究をパワーポイントで発表。■7月7日 オープンキャンパスの準備。高校生に多摩大のよさを伝え、フィールドワークは安全に行うこと。イベントの材料ともなる。■7月12日 オープンキャンパスで高校生も参加してゼミの模擬授業を実施。■7月28日 学外の方も招いてグループごとにイベント案をパワーポイントで発表。■8月25日、26日 サンリオピューロランド主催のダンスステージプロジェクトでイベントの手伝いを体験。

多摩大学版『多摩観光ガイドブック』を
つくる！～多摩市のシティセールス！

講師 中庭 光彦

■4月20日 ゼミ生は男子3名、女子1名の計4名。シティセールスとは何かを先生が講義。■4月27日 多摩市の地図を開き地域や街の魅力を探る。■5月11日 自分たちの視点で盛り込まれた小さな1枚の地図を来年1月までに完成させる。「College Eye」多摩大生観光コンサルティングチーム誕生！！■5月18日 誰のための地図を作るのか、目的を集約。■5月25日 フィールドワークで訪れる場所を各自選択。■5月31日 フィールドワークで現地を視察。京王線永山駅→諏訪名店会と永山団地商店会→瓜生緑地とよこやまの道は車窓から→旧多摩聖蹟記念館と都立桜ヶ丘公園→さき農園周辺の里山風景→原峰公園とゆう桜ヶ丘（桜ヶ丘コミュニティセンター）→「耳すま」撮影スポット→パルテノン多摩→多摩中央公園→パルテノン大通りと多摩センター駅■6月1日 現地調査で得られた情報、雰囲気や感触などを意見交換。■6月8日 地図上に載せる情報を認識。興味や関心を持った4つの場所をヒアリングの候補地とする。■6月15日 インタビューの手順を考えシミュレーション。■6月22日 先生の研究論文をサンプルにレポートの書き方を学ぶ。■6月29日 何が価値で魅力なのかを人に説明でき発見していけるようなガイドブック作りを考える。■7月6・13・27日 ゼミ生4名によるインタビューの報告会。テーマは「多摩センターはイベントすると集客できるのか」「シャッターの閉まっている店が多い商店街に駄菓子屋があったらという提案から諏訪・永山商店街について」「旧多摩聖蹟記念館のインタビュー報告」「聖蹟桜ヶ丘にあるノア洋菓子店のインタビュー」■8月3日 先生作成の『シティセールスの手法①』をたたき台に、来学期は「観光」行動を喚起する、多摩市魅力発見の観光ガイドブックづくりを目指す。

放課後児童の居場所づくり
～公民連携ビジネスプランニング！

講師 片桐 徹也

■4月21日 『放課後児童の居場所づくり』を取り上げ、多摩ニュータウン諏訪・永山地域のもつ特性を活かした、子供を見る仕組みをつくらうと今までの諏訪名店街・近隣大学との連携や経緯の概要を先生が説明。■4月28日 放課後児童の居場所づくりは何のために行うのか？コミュニティビジネスとは？住民とは？さらに多摩ニュータウンの沿革、P/PP概念について講義。■5月12日 地域イベントへの参加、ヒアリング、取材活動についてなど今後のスケジュールの調整と確認。■5月19日 諏訪・永山団地でフィールドワーク。梅澤佳子先生（経営情報学部経営情報学科）も同行。その後、法政大学多摩キャンパスで中田弾氏の「子どもの居場所づくり」を聴講。■5月26日 今後の日程について再度確認調整。■5月30、31日 多摩市諏訪商店街の「オーガニック市」に法政・大妻女子大生と合同でワッフルの店を出店。■6月2日 多摩市立諏訪小学校でヒアリング■6月9日 確認と調査を続けるための意見交換。■6月16日 先生から『のざわットーひろば』『大谷戸プレーパークTAMA』の見学報告。■6月23日 新聞記事を資料に「地域ビジネス」「児童の居場所づくり」「起業」「PPP」などについてディスカッション。■6月30日 成功者の法則、起業するとはどういうことか、地域ビジネスにおける企業家精神を考えた。■7月7日 松本先生が授業に参加、今後の活動方法についてアドバイス。■7月10日 世田谷区にある「株式会社キッズベースキャンプ（KBC）桜新町」を訪問し、代表取締役社長の島根太郎氏からヒアリング。■7月14日 放課後アフタースクールを開く上での問題点、多摩ニュータウンこれから40年の地域再生プランについて講義。■7月14日 春学期のまとめの準備作業。■7月28日 ゼミ生はPPで『放課後児童の居場所づくり』を中間発表。



Seminar ゼミナール活動報告

『猪苗代町観光促進に関する現地調査』を発表

多摩大学 経営情報学部 浜田 正幸ゼミ

浜田ゼミ (浜田 正幸 准教授) / アドバイザー 多摩大総研 松本 祐一 准教授は、『猪苗代町の観光活性化』をメインテーマに9月20日～24日、福島県猪苗代町で夏季合宿を行った。合宿前に立案した仮説に基づくフィールドワークや、観光客約400名を対象とした一斉アンケート調査などを実施し、最終日には町役場にて町議会議員や観光協会事務局など関係者の方々にプレゼンテーションを行った。地域・年代・予算などのセグメント分けに基づく既存の施策にとらわれない提言に、「今後の観光政策の大きな参考になる」と高い評価を得ました。



観光客へのアンケート調査 (野口英世記念館)



観光客へのアンケート調査 (野口英世記念館)



アンケートデータの分析・立案



集まったアンケート



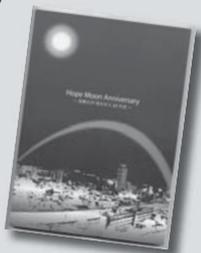
9月26日(土) 福島民報に記事掲載

望月先生に感謝の思いを込めて、ゼミ OB 会が祝賀会開催

望月ゼミは1989年の大学創立と同時に誕生し、20年間学生たちと学舎を共にしてきた。さらに担当教員である望月照彦先生は教授に就任されて20年を迎える。これを記念して、多摩大学望月ゼミ OB 会『ホープムーンアカデミー』が、10月17日(土)14時から品川サテライトキャンパスにて『望月ゼミ生誕および望月照彦教授就任20周年記念祝賀会』を開催し、約100名が参加した。望月ゼミ OB 会は、多摩大学のOB・現役生・大学院生及び望月ゼミに深く関わった方々で構成され、会員数は現在約360名。望月先生の名前にちなんで『ホープムーン』と名付けられた。

第1部は『望月ゼミ発足20周年を振り返る』。望月照彦先生と山田剛義先生による記念講演が行われた。望月先生は、「このフォーラムは企画力、構想力ともにすばらしく、スピーディーに作り上げてくれた。最高のプレゼンテーションです。ゼミの卒業生は300人以上。私自身が育てられました。感謝の思いで、嬉しくてたまりません」と挨拶。『出会い論一人は、出会うことで育まれる』のタイトルで、これまでの人生で出会い、大きな影響を受けた人々とのエピソードを語った。「一つ一つの出会いを大切にもらいたい。出会いこそが愛と創造の源だから」とメッセージを送った。また山田先生は『永遠の母港、そして常夜灯』と題して講演。望月先生がゼミで学生に向けて放ったことば『望月ゼミは皆様方の母港である』を引用し、「皆さん方の母港は私にとって常夜灯である」と、望月先生の人柄や自身との交友を語った。

その後、OB会編集による20周年記念誌を編集委員代表の13期・鴨川美紀さんが紹介。『ホープムーンアカデミー』について、OB会代表の4期・白倉正子さんが今後の発展に向けて新体制を発表し、会員の承認を得た。第2部の祝賀パーティでは、望月先生を囲み、会員たちは和やかな雰囲気の中で交流を深めた。



University for a walk around

多摩キャンパス

多摩丘陵に残された古人の夢の跡を
たどってみましょう

地域と大学
006



よこやまの道を散策し、古に思いを馳せる。

多摩ニュータウンの南端、多摩丘陵の東西には尾根道が延びる。この道は古代から東国と西国を結ぶ交通の要衝としての役割を果たしてきた。武蔵の国府（府中）から眺めると多摩丘陵は横に長い山々の連なりで、「多摩の横山」「眉ひき山」とも呼ばれた。万葉集にも詠われている。

「赤駒を山野に放し捕りかて
多摩の横山 徒歩ゆか遣らむ」
（万葉集 巻二十、四四一七 豊島郡の上丁 棕椅部荒虫が妻 宇遅部黒女）

「山野で放牧した馬が逃げてしまい捕えられず、夫に多摩の横山を歩いて越えさせなければならない」。九州防備のため防人として旅立つ夫、見送る妻は別れを惜しんで歌にした。

尾根道は現在、多摩東公園（丘の上公園）から長池公園手前までの約10kmが遊歩道として整備され、上記の歌より引用し「よこやまの道」と名付けられた。尾根筋には、鎌倉街道（鎌倉古道）、大山道（矢倉沢古道）、奥州街道、古代東海道などの古道が交差する。商人や鎌倉武士団、諸国霊場を行脚する巡礼者や都の貴人、新撰組などが往来したと想像される。よこやまの道の要所には、史跡を案内する立て札もある。歴史ロマンに思いを馳せ、小鳥のさえずりに耳をすま。季節の草花や生き物など里山の自然に触れながら散策を楽しみたい。

（参考資料）パンフレット「多摩よこやまの道」都市機構・多摩市 発行



① 展望広場から見た風景 ② 現在地を示す案内板
③ 奥州街道にあった石仏たち ④ 遊歩道が続く
⑤ 路傍にある道標 ⑥ 防人見返りの峠
⑦ 樹齢およそ400年のスタジイの巨木

Information

10月31日(土)、11月1日(日) 多摩キャンパス『雲雀祭』、11月7日(土)、8日(日) 湘南キャンパス『SGS フェスティバル』が開催されます。ぜひご来場下さい。



Rapport

Number. 068

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 プリント永山
発行日 2009年10月28日

<http://www.tama.ac.jp/>

Contents

News

学食に『なでしこランチ』登場 P.02

第1回「私の志」小論文コンテスト
優秀作品表彰式 P.03

特集 第21回 雲雀祭 P.04
Tama University Festival

ゼミナール報告 P.06
村山ゼミ「日本大好きプロジェクト」
増上寺 和紙キャンドルナイト

地域と大学 多摩 神社と寺院 P.08
歴史ある寺社を訪ねる

News

第21回雲雀祭に
キティちゃんが来場

10月31日(土)・11月1日(日)、多摩キャンパスで『第21回雲雀祭』が開催されました。屋外ブースにはゼミやサークルによる模擬店が並び、屋内ブースにはゼミの研究発表や多摩大学創立20周年記念「現代の志塾展」として、多摩大学の歴史を語るパネルが展示されました。31日には俳優の佐藤健による『トークイベント』が開催され、多くの女性が来場。また今年は松本EXゼミによる「サンリオプロジェクトゼミ」ブースが初出店しました。会場にはキティちゃんが登場し、来場者と写真撮影を行いました。



サンリオプロジェクトゼミブース前で記念撮影

パルテノン多摩で多摩大学創立20周年記念コンサート開催

11月10日(火)パルテノン多摩大ホールにて、『多摩大学創立20周年記念コンサート』が開催されました。演奏は佐藤俊介さん(ヴァイオリン)と菊池洋子さん(ピアノ)。コンサート進行とプレトークは多摩大学経営情報学部の樋口裕一教授が務め、プログラムには樋口ゼミの学生による曲目解説が掲載されました。19時に開演し、クライスラー『愛の喜び』、ショパン『子犬のワルツ』、ラヴェル『ツィガーヌ』、セザール・フランク『ヴァイオリン・ソナタイ長調』などが演奏され、美しい音色に観客は魅了されました。



ロビーにはパネルを展示し多摩大学を紹介

学食メニューに
『なでしこランチ』が新登場

多摩大女性職員による『なでしこプロジェクト』が女子学生のために考案した『なでしこランチ』が、11月10日(火)から多摩大学食のメニューに加わりました。「色々な種類を少しずつ食べたい」「ヘルシーでさっぱりしたものが食べたい」などの女子学生の意見を取り入れて、メインディッシュ、サラダ、デザート、スープがセットになって400円。料理には野菜を多く取り入れ、カロリー控えめ。メニューは週変わりで、火曜日と木曜日に1日20食限定で販売しています。(男子学生もオーダー可能!)



おしゃれてヘルシーなワンプレートランチ

第1回「私の志」小論文コンテスト
優秀作品を表彰

11月15日(日)10時30分から、第1回「私の志」小論文コンテスト(主催多摩大学)の表彰式が多摩キャンパス101教室にて行われました。全国から353点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選定されました。最優秀賞は学習院女子高等科2年生杉井昭子さんの『生き物全てに優しい研究者』。受賞者らにはコンテスト委員長の望月照彦教授より表彰状と記念品が授与されました。審査員の望月先生、諸橋正幸先生、齋藤T.裕美先生、樋口裕一先生からは作品の講評がありました。



表彰状を授与される杉井昭子さん

増上寺で村山ゼミが『和紙キャンドルナイト』イベント開催

11月21日(土)18時から21時まで、増上寺で『増上寺 和紙キャンドルナイト』が開催されました。イベントを企画・運営したのは村山ゼミ『日本大好きプロジェクト』の学生約40名。三門前から大殿まで和紙キャンドル約2500個を配置。学生たちが手づくりした2500枚の和紙には、港区内の幼稚園や小学校の子どもたち約1000人が絵を描きました。境内にはライトアップされた『いけばな』が飾られ、箏・十七絃・尺八による『邦楽の調べ』、『空手型披露』、ゼミ生が演じる『紙芝居』『手影絵劇』などのイベントも行われました。



子どもたちの絵が描かれた和紙キャンドル

サンリオピューロランドで
多摩大生がイベントを企画・運営

サンリオプロジェクトゼミ(松本祐一准教授)の学生22名が、12月20日(日)19時から閉館後のサンリオピューロランドで、『SANTAMA ロマンティックナイト～夜のピューロで仮装パーティ～』を開催しました。夜の館内を利用して学生がイベントを開催するのは、ピューロランドでも初めての試み。当日はパーティ券を購入した大学生約100名が参加し、ダンスイベントや仮装コンテスト、スイーツや軽食などの立食と交流をたのしみました。参加者にはゼミ生からクリスマスプレゼントが渡されました。



仮装した大学生にインタビューするゼミ生

第1回「私の志」小論文コンテスト表彰式

「『志』は目的に向かって実現させていくもの」

11月15日(日)10時30分から、第1回「私の志」小論文コンテスト(主催 多摩大学・後援 高校生新聞社)の表彰式が多摩キャンパス101教室にて行われた。『現代の志塾』を教育理念とする多摩大学が高校生に『志』を考えるきっかけを提供し、志を持つ学生の育成に努めることを目的として開催。高校生を対象に2009年7月1日から9月30日まで募集を行い、全国から353点の応募があった。

小論文は2400字以内、「私の志」という難しいテーマであったが、将来の職業とそれに至る経緯まで明確に書かれた作品もあり、「志とは何か」を高校生が考えるきっかけとなった。一次審査で31点を選び、その中から最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選定した。最優秀賞は学習院女子高等科2年生 杉井昭子さんの『生き物全てに優しい研究者』、優秀賞は南砺総合高等学校福光高等学校3年生 斉藤智佳さんの『挑戦』、大妻高等学校1年生 関根萌実さんの『将来の夢』、仙台白百合学園高等学校3年生 半澤彰子さんの『「存在」が「誇り」』。

審査員は経営情報学部の望月照彦教授、諸橋正幸教授、齋藤T.裕美教授、樋口裕一教授が務め、コンテスト委員長の望月教授より最優秀賞と優秀賞の受賞者に表彰状と記念品が授与された。望月教授は、「全国から多くの応募があり、心からありがとうと感謝の言葉を述べたい。どれもこれもすばらしく心を打つものがあった。今回のコンテストは高校生の皆さんにどんな志を持っているのかを問うてみた。夢と志は近いところにあるが違う。志は目的に向かって具体的なプログラムに基づき実現させていくもの。大学

は志を実現するためのお手伝いをするとところですよ」と挨拶した。学部長の諸橋教授は、「皆さんの夢と志がどう繋がっていくのか心配していたが、立派で具体的な考え方を持った方々で敬服した。自分のやっていることを時々外から眺めて位置づけ、何が足りないのか、良い影響と悪い影響を考えて進んでいただきたい」と感想を述べた。アドミッション委員長の齋藤教授は、「私たちが読んだ原稿は直筆だったので、筆者の気持ちがとてもよく伝わってきた。受賞した皆さんは自信と誇りをもって邁進してほしい」と評価。樋口教授はそれぞれの小論文を講評し、「大学は教えるところではなく個人の志をバックアップして共に育ち、志のある人が利用するところ。今の考え方を忘れずに進学してほしい」と高校生たちに語りかけた。



短期海外研修プログラム(T-SAP)が行われ、5名の学生が参加しました。

短期海外研修プログラム(T-SAP)は、夏期休業期間を利用した多摩大学独自の研修プログラムです。アメリカとカナダに短期と長期をあわせて4校の提携校があり、ホームステイをしながら大学に通うだけでなく、現地の企業を訪問するなど様々な課外活動に参加します。

今回、ポートランド州立大学へ参加した石川健太君(経営情報学部1年)は、「初めての海外でしたが、ホームステイなど何としても相手に伝えなければならない状況の中で、積極的に大勢の人と話し、「伝えることの重要性」を学びました。また、様々な課外活動をとおして充実した時間を過ごすことができ、もっと世界を知りたいという欲求が生まれました。今後はアジア、アフリカ、ヨーロッパなど様々な国に行ってみたいです」と感想を熱く語ってくれました。



Tama University Festival

第21回雲雀祭

テーマは『コミュニティ』

10月31日（土）・11月1日（日）、多摩キャンパスで第21回雲雀祭が開催された。屋外ブースにはゼミやサークルによる焼きそば、たこ焼き、焼き鳥、HOT DOG、チジミ、チョコバナナなどの模擬店が並び、芝生広場では巨大だるま落とし、ストラックアウトなどのアトラクション、テニスコートではフットサル大会が開催された。屋内ブースにはゼミの研究発表や多摩大学創立20周年記念「現代の志塾展」として、多摩大学の歴史を語るパネルが展示された。31日には13時から俳優の佐藤健による「トークイベント」が開催され、多くの女性が来場した。また昨年は松本EXゼミによる「サンリオプロジェクトゼミ」ブースが初出店し、多摩大オリジナルキティちゃんタンブラーを配付した。会場にはサンリオピューロランドからキティちゃんが来場。高校生や親子連れと記念撮影するなど大人気だった。



『ホープムーンアカデミー賞』プレゼン審査会開催

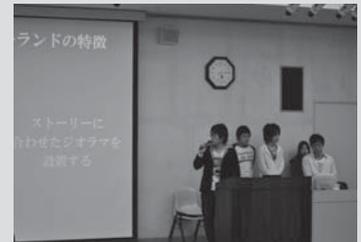
多摩大学望月ゼミ同窓会 主催

ホープムーンアカデミー（HMA）は昨年10月17日、望月照彦先生の教授就任20周年記念祝賀会にて設立された多摩大学望月ゼミ同窓会の名称だ。HMAでは卒業生を含む会員同士の交流や支援等の活動を行う。『ホープムーンアカデミー賞（HMA賞）』は、望月ゼミに在籍する学生会員のレベルアップを目指し、また学生会員と社会人会員の交流を図ることを目的に設立された。学生会員によるプレゼンテーションを社会人となった卒業生が審査・助言等を行う。発表の様子は動画で録画し、翌日にインターネットで配信して、会場に来られない社会人会員も審査に参加できるようにした。

今年度第1回目のHMA賞プレゼンテーションは12月2日（水）、第2回目は12月9日（水）に実施した。望月先生からは2つの課題が発注された。第1回目の課題は「『世界的有名ブランドを再生する』ヨウジヤマモトのリターンマッチを仕掛ける」。望月ゼミ3年生が2チームに分かれて、企業再生・新生戦略会社を設立し企画提案を競い合った。

第2回目プレゼンテーションは16時20分から101教室で行われた。発注課題「『多摩メリーゴーラウンド経営会社を設立せよ』永山駅グリナード広場に世紀のメリーゴーラウンドを仕掛ける」が2年生2チームに与えられた。各チームは持ち時間20分で、メリーゴーラウンド経営の企画、資金調達、投資計画、宣伝・広告戦略、イベント企画などを発表した。審査員として望月ゼミOBの奥村泰夫さん、鈴木崇さん、坂西元さんが出席しコメント、坂西さんは同じ課題で後輩達の前に見事なプレゼンテーションを繰り広げた。望月先生は各チームを講評し、「短い時間だったがいろいろなヒントがあり、私自身も刺激になり勉強になった」と話した。

12月16日のクリスマス会では動画審査による結果発表が行われ、優秀賞を受賞したチームには望月先生より表彰状と賞品が授与された。



Project Seminar プロジェクトゼミナール活動報告

夜のピューロランドで多摩大生がイベント開催

プロジェクトゼミ『多摩の地域ビジネス』

集客施設のマーケティング～サンリオピューロランドの問題解決イベントの企画・運営

サンリオプロジェクトゼミ『集客施設のマーケティング～サンリオピューロランドの問題解決イベントの企画・運営』（松本祐一准教授）の学生22名が、12月20日（日）19時から21時まで閉館後のサンリオピューロランドを利用して、『SANTAMA ロマンティックナイト～夜のピューロで仮装パーティ～』を開催した。

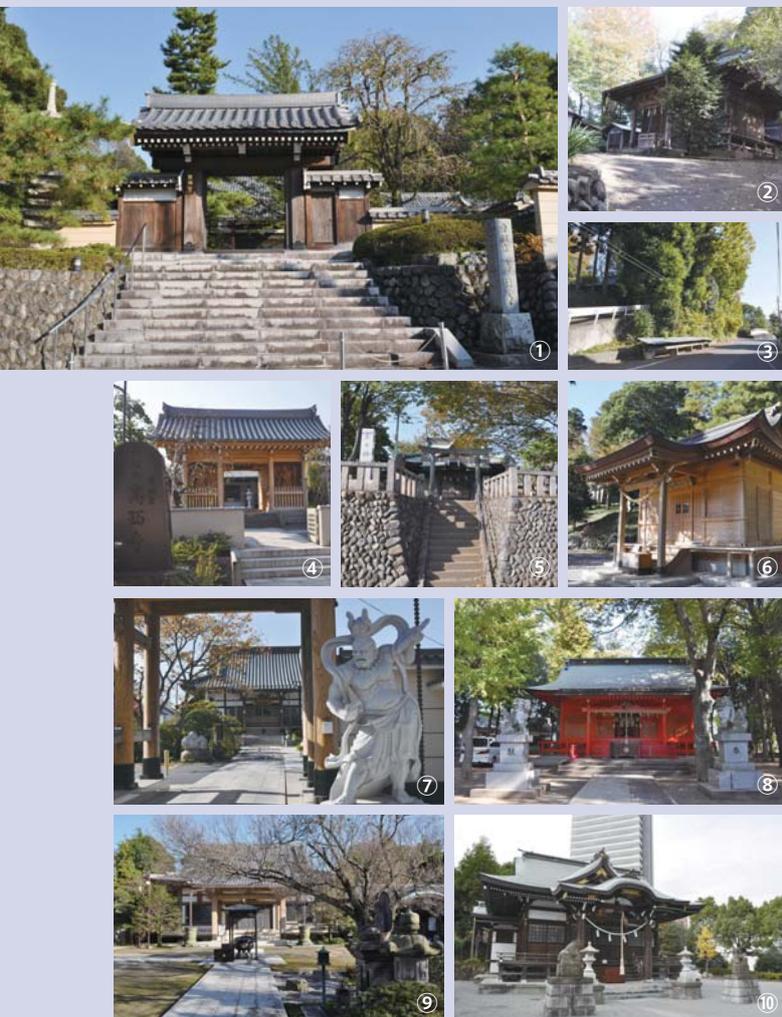
夜の館内を貸し切りで学生がイベントを開催するのは、ピューロランドでも初めての試みだ。イベント開催のために、学生たちは近隣の大学を訪問して大学生に参加を募ったり、多摩市内の飲食店やお店を訪問して割引券やケーキの提供をお願いしたりした。当日はパーティ券を購入した大学生約100名が参加。館内の「知恵の木ステージ」を中心に、ダンスイベントや仮装コンテスト、スイーツや軽食などの立食と交流を行った。多摩市長も来場し、参加した大学生たちにピューロランドをPRした。

昨年4月から多摩大学は、サンリオピューロランドと産学協同プロジェクトを開始した。サンリオプロジェクトゼミはその一環。ゼミでは春学期、秋学期を通して、サンリオピューロランドが抱える課題「大学生世代にも来場してもらう」ためにイベントの企画や運営方法について取り組んできた。授業にはサンリオ社員も参加し、学生たちにイベントに関するアドバイスなどでご協力いただいた。また多摩大女性職員による「なでしこプロジェクト」も加わり、ゼミ生たちの活動の様子をオープンキャンパスや学園祭でPRした。

当日はイベント終了後、参加者にイベントの感想をアンケートで答えてもらい、出口ではゼミ生が集めた割引券、記念メダルやピューロランド入場券などが詰まったプレゼント袋を手渡した。一年間のゼミ活動は報告書としてまとめ、2010年2月12日（金）、『多摩の地域ビジネス』プロジェクトゼミの合同発表会でプレゼンテーションを行う。



University for a walk around



寺社を巡り、心穏やかに幸を祈る

多摩キャンパス
 多摩市にある寺院と神社の歴史と由来をご案内

地域と大学
007

多摩市には 30 の神社と 16 の寺院があり (平成 21 年 12 月 4 日現在)、ニュータウン開発以前から地域に根ざし親しまれてきた。神社は村の鎮守として普請され、多くが例年 8 月、9 月に祭礼が行われた。

落合 (旧地名は落合村字青木葉) にある白山神社は、東福寺境内にあった村の鎮守社であった。祭神はイザナギノミコトで 1618 年に再建されたと伝えられる。落合白山神社が所蔵する三匹獅子舞用具 (二組の獅子頭を始め一式の道具と衣装/非公開) は、江戸時代末期から昭和初期の民俗芸能を知るための貴重な資料であり、市有形民俗文化財に指定されている (平成 19 年 4 月 2 日付)。

一ノ宮 (旧地名は一ノ宮村) の小野神社は市内で最も古く由緒ある神社だ。祭神は あめのした(も)はるのみこと 天下春命で、772 年の太政官府にも記載が残る。武蔵国六所宮 (府中市大国魂神社) に合祀された第一位の一ノ宮大明神であり、地名の由来でもある。鎌倉末期に造られたヒノキ材、寄木造りの木像、木造隨身倚像 2 体 (非公開) は都の有形文化財に指定されている。

多摩市で最も歴史の古い寺は、東寺方 (旧地名は寺方村) にある寿徳寺だ。1390 年に念阿法印護法という真言宗の僧により開山され、1541 年に日舜宗慧大和尚が再興開山して曹洞宗に改められたという。寺方村の地名の由来であったともいわれる。隣接してある山神社は祭神がオオヤマツミノミコトで、元は寿徳寺の境内地であった。寿徳寺の裏山付近は入道谷戸の地名があり、入道が出没するという昔語りも残る。東寺方の観蔵院や豊ヶ丘の吉祥院には鐘楼があり、除夜には 2010 年の幸を祈って多くの人が鐘をついた。

(参考資料: 多摩市の町名、多摩市史 通史編・資料編二/多摩市発行、多摩市教育委員会 HP)

- ① 寿徳寺
- ② 山神社
- ③ 風土記に「大屋敷」の地名がある。観音堂の谷戸から寿徳寺に向かう道
- ④ 高西寺
- ⑤ 春日神社
- ⑥ 十二神社
- ⑦ 観蔵院
- ⑧ 小野神社
- ⑨ 吉祥院
- ⑩ 白山神社

Information

2 月 12 日 (金) に多摩キャンパス 101 教室にて地域ゼミ合同発表会が行われます。学生たちによる発表の様子は次号の rapport にてご紹介する予定です。



Rapport

Number .069

発行 多摩大学
 東京都多摩市聖ヶ丘 4-1-1
 TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
 編集・印刷 株式会社 インフォテック
 発行日 2010 年 1 月 30 日

<http://www.tama.ac.jp/>

Contents

News

2009年度 経営情報学部卒業式 開催 P.02

2009年度多摩大学多摩キャンパス
学生サービス認識度調査結果 P.03

特集 キャンパスカレンダー P.04
Tama Campus Calendar

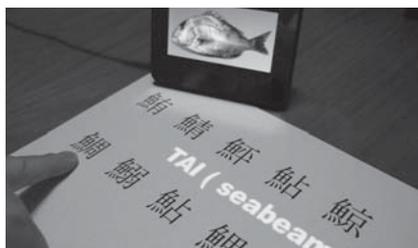
地域ゼミナール活動報告 P.06
地域プロジェクト活動報告会

地域と大学 多摩 伝統民家 P.08
古民家の造りと暮らし

News

出原ゼミ開発の「JishoDesk」が Laval Virtual で出展決定!!

2010年2月3日、経営情報学部出原ゼミナールが中心となって開発した日本語学習支援システム「JishoDesk」が、フランスで4月に開催されるバーチャルリアリティの国際大会 Laval Virtual において、ReVolution 部門の出展審査を通過、展示されることが決定しました。このシステムは、2009年にフランスからインターンで来日した Shaun MERMET さんと出原ゼミの教員・学生が共同で開発したものです。ユーザー側に特殊な装置や操作を必要としないで、印刷された日本語の読み方や意味を提示することができる点が評価されました。



日本語学習支援システム「JishoDesk」

フランス短期インターンシップに 学生が出発

2月4日、経営情報学部2年生の後木貴博さんが、フランス Laval にある提携校 Ecole Supérieure d'Informatique Electronique Automatique (ESIEA) に出発しました。2ヶ月の短期インターンシップの間に、プロジェクトベースでのプログラミングの共同作業に加わるとともに文化的な交流も期待されています。出原ゼミでは2009年のESIEAとの基本提携合意に基づいてインターン留学生を受け入れ、国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト (IVRC) に応募する作品を共同立案・開発するプロジェクトを立ち上げています。



作品の開発に取り組む後木貴博さん

2009年度 多摩大学 地域プロジェクト報告会開催

2月12日(金) 13時～17時まで101教室にて「2009年度 多摩大学地域プロジェクト報告会」が開催されました。地域との連携を全学的に推進していくために今年度、「多摩大学地域活性化マネジメントセンター」が設立され、11の「プロジェクト型地域学習」が展開されました。報告会には、プロジェクトに関わった約120名の学生と教職員が参加し、さらに各プロジェクトの学習を進めていく中でお世話になった地域住民や行政、企業の方々もお招きしました。報告会終了後は学食にて、和やかに懇親会が開催されました。



ゼミの成果を発表する学生たち

平成21年度 就職支援推進プログラムに選定

文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」就職支援推進プログラムに本学が申請した「就職内定率100%を目指した相談体制充実と就職機会強化の取組」が選定されました。プログラムの目的は、キャリアカウンセラー等の配置など関係機関と連携した就職相談体制の強化を図る取り組みや、学生の卒業後の社会的・職業的自立につながるキャリアガイダンスに対して重点的な財政支援を行うことにより、学生の就職率の向上やキャリア形成の促進を図ることです。本学では(1)ハローワークや地域の企業と連携して専門知識や勤務経験のある者を就職相談員として増員、(2)教職員一体となって地域の企業等を開拓して学内にて合同企業説明会の開催など、学生の就職機会の増加とともに就職支援体制の強化を図ることで就職内定率の更なる向上につなげていきます。

多摩大学経営情報学部 後援会セミナー開催

2月23日(火) 18時30分から多摩大学品川キャンパスにて、「多摩大学経営情報学部後援会セミナー」が開催されました。参加された保護者の皆様にとって今一番気になることは、「就職氷河期」といわれている社会状況。セミナーのテーマは「キャリア(就職)企画第5弾!いま本当に必要な就活力とは」。就職委員長の浜田正幸准教授と「タキヒヨー株式会社」で長年人事を担当されている副支店長青木正男様との対談が行われました。その後多摩大学キャリア支援グループの職員から現場の状況が報告されました。



セミナー会場で熱心に聞き入るご父兄の方々

2009年度 経営情報学部卒業式

3月20日(土) 10時から多摩大学大教室にて、「2009年度多摩大学経営情報学部卒業式」が行われました。ゼミごと卒業生一人一人の名前が呼ばれ、寺島実郎学長より卒業証書が授与されました。また本年度のMOSC特別賞5名には表彰状が贈られました。寺島学長は、「Good Luck! 人生に幸運が待ち構えていることをお祈りします」と239名の卒業生を祝福し、卒業生代表として岸恵里花さんは、「多摩大学で学び得たことを糧に成長していきます」と答辞を述べました。



寺島学長より卒業証書を授与される卒業生

多摩大学多摩キャンパス学生サービス認識度調査結果 (2009 年度抜粋)

2009 年 12 月～2010 年 1 月にかけて多摩大学多摩キャンパスの学生を対象に「学生認識度調査」を行いました。この調査は多摩大学の学生サービス向上のために現状のサービスの認識、満足度について調査したものです。

学生生活支援グループ

学生生活支援グループのサービスを知るきっかけとなったものは何ですか？

(回答数：814 複数回答可)

システム揭示 (T-NEXT Portal)	164
学生ハンドブック、シラバス	123
各種構内掲示	144
友人から聞いた	280
職員から聞いた	75
その他	28

(学生生活の中で自然と知った・学校で見かける(医務室・カウンセリング等)・自分が使ったことがある等)

キャリア支援グループ

あなたはどんな時にキャリア支援グループを利用しましたか？

(回答数：827 複数回答可)

個人面談 (進路指導)	182
履歴書、エントリーシート添削	78
企業面談、説明、試験相談	65
企業情報に関する相談	67
連絡希望カード提出	96
各種行事の申込	76
利用したことはない	256
その他	17

(ITパス等その他・証明書等)

教務グループ

履修する際に困った時、どのようにしていますか？

(回答数：772 複数回答者有)

シラバスで確認	338
教員に相談	92
教務グループに相談	153
友人 (又は先輩) に相談	179
その他	10

(困ったことがない・単位取得に関する情報について等)

MIC LSS メディア&インフォメーション・センター
ライブラリー・サービス・セクション

あなたはどんな目的で図書館を利用しますか？

① 図書館の資料を利用するため (回答数：831 複数回答可)

② 館内の施設を利用するため (回答数：817 複数回答可)

MIC MSS メディア&インフォメーション・センター
メディア・サービス・セクション

あなたはどんな目的で MSS サポート窓口を利用しますか？

(回答数：814 複数回答可)

貸与パソコンの基本操作	177
パスワード	90
多摩大学各種システム	68
ソフトウェアインストール	117
機材・備品の貸出	70
貸与パソコンの修理	174
その他	11
利用したことがない	107

その他の内容 (OS のダウングレード 等)

特別公開講座 ～コーチング入門～ 「どうすればよいコミュニケーションがとれるのか」

3月6日(土)午後2時から4時まで、101教室で飯田健雄ゼミ主催による特別公開講座「コーチング入門」が開催された。「コーチング」とはコミュニケーションスキルを育てるための技法で、2000年頃アメリカから輸入され日本で独自の発展を遂げた。相手を尊重し会話から相手の考えを引き出して、考える能力を育てることを目的とする。コーチングの基本は、「1. 傾聴の態度を取る 2. 質問をする 3. 承認する」の3つだ。「第1部 コーチング入門 WORKSHOP」では、飯田ゼミの2年生が2人1組となり上司と部下の役で、コミュニケーションの悪い例と良い例をロールプレイ(寸劇)した。「第2部 組織変革 WOKSHOP -会議での意思決定-」では、4年生6人が会

議での意思決定の場面をロールプレイした。WORKSHOP で使用した台本は、飯田先生が作成した台本をベースに学生達が練り直して自分たちのことばに作り上げたものだ。飯田先生は、「今後は親子のコミュニケーションを題材にしたロールプレイも公開し、日常生活に役立ててもらいたい」と考えている。



Tama Campus Calendar

キャンパスカレンダー

2009年度多摩キャンパスの1年間。
さまざまなイベントやできごとがありました。



寺島実郎監修リレー講座

4月



入学式

5月



6月

多摩大学創立 20 周年記念
シンポジウム

オープンキャンパス

8月

夏季休業

7月

オープンキャンパスで
模擬授業

9月

秋学期開始



多摩大マッ



11月



20周年記念コンサート



増上寺キャンドルナイト



「私の志」小論文コンテスト表彰式



20周年記念展示



12月



サンリオプロジェクトゼミ
によるイベント

2月



地域プロジェクト報告会

1月 冬季休業

3月



卒業式



10月



チ DAY 望月教授就任 20周年記念祝賀会



雲雀祭

Seminar 地域ゼミナール活動報告

2009年度 多摩大学地域プロジェクト報告会

多摩大学では、地域の人とともに地域の問題解決を図ることを目的として、昨年10月1日に「多摩大学地域活性化マネジメントセンター」を設立した。地域と大学が連携して継続的に活動していくことにより地域の問題を解決していく。地域プロジェクトはマネジメントセンターを中心に展開し、今年度はホームゼミ、プロジェクトゼミ、インターゼミの3種類のゼミナール形式の授業において11のプロジェクトが実施された。「プロジェクト型地域学習」は、調査分析レポートとしてまとめる「調査分析型」、目的達成のためにイベントを企画運営する「イベント運営型」、事業の立ち上げや運営支援を行う「事業運営型」に分類される。2月12日（金）13時から17時まで101教室にて報告会が行われ、1チーム15分の持ち時間でゼミの成果を発表した。



テーマ：「湘南モデル」研究

[調査研究型]

「地域は創造する」 “湘南” を世界モデルへ

望月照彦ホームゼミ

今年のゼミのテーマは昨年に続き「観光産業」。共同幻想から生まれた地域「湘南」の魅力を新たな産業政策、観光、ブランド論など総合的に分析し、新しい観光モデルを提案する。ブランド論、ファッション論、ベンチャー論、ツーリズム論、比較地域論について5つの班で調査・分析し報告書として1冊の本にまとめあげていく。



テーマ：猪苗代観光開発研究

[調査研究型]

猪苗代観光開発研究 ～現地調査結果を中心として～

浜田正幸ホームゼミ

目的は「猪苗代町における観光に関する実態調査をすることにより、今後の観光促進に資するものとする」こと。猪苗代観光施設へのアンケート調査、従業員や観光客へのインタビュー、現地の見聞調査（フィールドワーク）などから現状を分析し、世代、観光客の所在地、滞在日数、予算などニーズに応じたプランを提案した。



テーマ：放課後児童の居場所づくり研究

[調査研究型]

放課後児童の居場所づくり～官民連携の視点による持続的地域運営のために～

片桐徹也 EXゼミ「公民連携ビジネスプランニング」

行政、児童施設、民間事業者、鉄道事業者、生協、農協、外国人などからのヒアリング調査から多摩ニュータウンの現状や問題をリサーチ。地域の資源やPPPの活用により「多摩ニュータウンは子育て環境の充実によって持続的な地域経営を行うことができる」とし、問題解決案を提案。その一環として「アフタースクール」が進行中だ。



テーマ：公園マネジメント研究

[調査研究型]

公園マネジメント研究

久恒啓一ホームゼミ 公園プロジェクト

八王子市南大沢にある長池公園のマネジメント研究。環境調査や公園管理者へのヒアリング、また上野公園や山下公園、光が丘公園、昭和記念公園など他公園との比較などから長池公園を分析。ランニングコース、散歩コース、写真ポイントなど自然を活かした新たなサービスを提案することで利用者の増加を図る。



テーマ：東京ヴェルディ地域活動支援

[イベント運営型]

東京ヴェルディ地域活動支援

久恒啓一ホームゼミ 東京ヴェルディプロジェクト班

多摩地域の活性化と東京ヴェルディの地域貢献活動をサポートすることを目的に「応援フラッグイベント」(9月5日)、「多摩市サンクスマッチ」(9月13日)、「夢明かりイベント」(12月5日)という3つのイベントを実施した。サンクスマッチ当日はアンケート調査を行うことにより参加者の感想や問題点を精査した。



テーマ：多摩センター地区活性化研究

[調査研究型]

多摩センター地区活性化プロジェクト

酒井麻衣子ホームゼミ

多摩センター連絡協議会、多摩大学総合研究所、酒井ゼミによる産学協同プロジェクト。多摩センター地区の課題を4つの研究テーマでアンケート調査を実践。回答結果を分析し、活性化に向けて「もっと広告を出そう」「学生の活動・交流を利用」「駅利用者呼び込む」「若者を対象としたイベント」という4つの施策を提案した。



テーマ：多摩の手土産づくり支援

[事業運営型]

多摩手土産プロジェクト ～具体案と今後の狙い～

久恒啓一ホームゼミ 多摩焼きプロジェクトチーム

多摩の土で作られた多摩焼を多摩市のお土産(特産品)として広めるために手土産の総合サイトを立ち上げる。単なる手土産総合サイトではなく多摩の活性化も見据えた作りし動画や観光などの要素も加え、将来的には通販システムを組み込んでいく。サイト名は「多摩の玉手箱」、3月31日までの完成を目指す。



テーマ：多摩観光ガイドブック作成

[調査研究型]

多摩大学版「多摩観光ガイドブックを作る！」

中庭光彦 EX ゼミ 多摩市のシティセールス

サンリオピューロランド、旧多摩聖蹟記念館、諏訪商店街、聖蹟桜ヶ丘、多摩センターなどそれぞれが現地を繰り返し取材し関係者からもインタビューすることで、多摩版ガイドブックを作り上げた。ゼミのまとめとして多摩市の魅力的な点とそうでない点をあげ、多摩市の魅力を社会的視点から考察した。



テーマ：多摩ニュータウン活性化研究

[調査研究型]

多摩ニュータウン再生の研究

インターゼミ わっしょい! TAMA チーム

多摩大学の学生180名に「まちと地域に関する意識調査」のアンケートを実施し、地域活動への参加意識を分析。地域のプラットフォームとしての地域 SNS は、情報のマッチング、コミュニティの形成と促進という価値をもつ。若者利用者が多い mixi に地域 SNS を設置し情報を発信、若者中心で地域を盛り上げていくことを提案した。



テーマ：東鳴子温泉活性化研究

[調査研究型]

東鳴子温泉活性化プロジェクト ～都会の若者からの提案～

インターゼミ 東鳴子温泉活性化チーム

ゼミでは29回のフィールドワークを実施。温泉の種類や効能から湯治は現代に適したものと定義。東鳴子温泉の近年の課題は「広報」「コンテンツ」「地域の連携」の不足とし、さらに留学生、多摩大学、学生の現状も含めて「多摩大学×東鳴子ゆめ会議 国際交流プロジェクト」を提案した。



テーマ：サンリオピューロランドの課題解決イベントの運営 [イベント運営型]

集客施設のマーケティング～サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営～

松本祐一 EX ゼミ

サンリオピューロランドと多摩大学の産学協同プロジェクトの一環としてのゼミ。ピューロランドの課題「学生来場者数の減少」の解決と多摩地域の活性化がゼミの目的。ピューロランドでのフィールドワーク、オープンキャンパス参加、ダンスプロジェクト運営体験を実施し、12月20日ピューロランドでイベントを運営した。



University for a walk around

多摩キャンパス

多摩市に残る伝統民家から
かつての暮らしぶりをみる

地域と大学

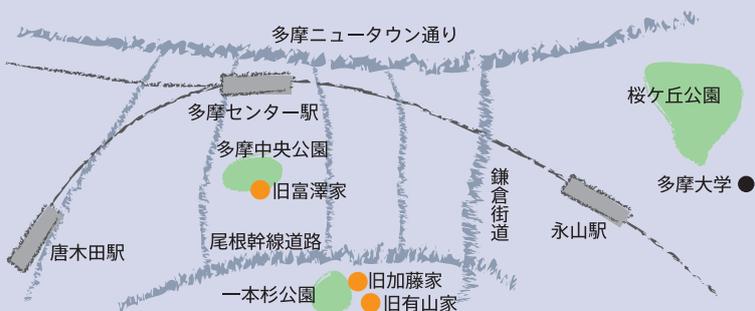
007

機能的であった民家の造り

多摩市には今も家人が生活する伝統民家が2棟現存し、また市内の公園に復元移築された古民家が3棟ある。家の造りや間取りからは、多摩の伝統的な暮らしを垣間見ることができる。平成2年5月に多摩中央公園内に復元移築された「旧富澤家住宅」は、多摩市連光寺の富澤氏より寄贈されたものだ。富澤家は代々連光寺村の名主を務め、明治天皇始め皇族が1881年以降兎狩りなどで訪れた際には「御小休所」として利用されたこともある名家だった。一本杉公園に移築復元された旧有山家（市指定有形文化財）は乞田の有山家から、旧加藤家は落合の加藤家からそれぞれ昭和56年に寄贈された。茅葺屋根は茅葺形銅版葺屋根になっているが、ほぼ当時の姿に復元されている。

多摩地域では、丘陵地の緩やかな斜面や街道沿いに屋敷を構えることが多く、平均的な民家の広さは約300坪だった。公道から屋敷地への入口をジョウグチといい、主屋（オモヤ）は南に面して建てられた。正面にはニワがあり農作業に利用され、主屋のまわりには、木小屋、シモヤ（堆肥小屋）、物置、外便所、外風呂などの付属屋が配置された。一般的な民家の主屋は、最も重要で多目的用途をもつ土間（ダイドコロ）、イロリを囲んで家族がくつろぐ広間（ザシキ）、接客用の部屋で床の間があり上等な造りのデイ（オク）、狭く寝室として使われた納戸（ヘヤ）などからなる。多摩ではかつて養蚕が盛んであった。加藤家では寝室を除いて屋内のほとんどが養蚕の場にあてられ、昭和44年まで行われていたという。

旧富澤家と旧加藤家は一般公開され体験学習など市民が利用できる。（参考資料：多摩市叢書（9）多摩市の民俗（衣・食・住）／旧富澤家・旧有山家住宅・旧加藤家住宅パンフレット 多摩市発行）



- ①旧富澤家
- ②ダイドコロ（土間）：カマド（ヘツイ）は山の赤土とワラを練って固めて造られた。コウシンサマ（荒神様）が祭られている。
- ③ドマ境とスノコ床の座敷
- ④旧加藤家
- ⑤デイの床の間
- ⑥トンボグチ（土間の出入り口）
- ⑦風呂場
- ⑧イロリ（ユロリ）：自在鉤の止め木に魚があるのは、魚は水に属するもので火を防ぐという信仰からといわれる。
- ⑨旧有山家

Information

20周年を機に改めて掲げた教育理念「現代の志塾」。

3月20日「現代の志塾第一期生」として239名が卒業しました。



Rapport

Number. 070

発行 多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7100
編集・印刷 株式会社 インフォテック
発行日 2010年3月30日

<http://www.tama.ac.jp/>